OWNER'S MANUAL

DVD HOME THEATER SYSTEM

3・2・1Ⅱ
3・2・1GSⅡ

この度は3・2・1Ⅱ/3・2・1GSⅡシステムをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。本機を正しくお使いいただくため、ご使用になる前に必ずこの取扱説明書をお読みください。
また、必要なときにご覧になれるよう保管しておいてください。

3・2・1Ⅱ/3・2・1GSⅡ システム取扱説明書

※説明の便宜上、イラストは原型と異なる場合があります。

安全上の留意項目

ご使用前に、この「安全上の留意項目」をよくお読みになり、正しくお使いください。

絵表示について

この「安全上の留意項目」は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するため、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

警告　この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。

注意　この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が損傷を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示します。

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

△記号は注意を促す内容を告げるものです。
（左図の場合は指をはさまれないように注意）が描かれています。

警告		
	電源プラグをコンセントから抜け	●万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災、感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。 ●万一、内部に水などが入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。 ●万一、内部に異物などが入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
		●電源ケーブルが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
	水場での使用禁止	●風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。
		●乾電池は、充電しないでください。電池の破損、液もれにより、火災・感電の原因となります。
	使用禁止	●雷が鳴りだしたら、アンテナ線や電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。
		●表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。 ●この機器を使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流（DC）電源には接続しないでください。火災の原因となります。 ●この機器に水が入ったり、ぬらさないようにご注意ください。火災・感電の原因となります。雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。
		●万一、この機器を落としたり、キャビネットを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

Safety Information

警告

通風孔のある機器のみ

●この機器の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。この機器には、内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔があけてあります。次のような使い方はしないでください。
この機器をあお向けや横倒し、逆さまにする。この機器を押し入れ、専用のラック以外の本箱など風通しの悪いところに押し込む。
テーブルクロスをかけたり、じゅうたん、布団の上において使用する。

●この機器を設置する場合は、壁から10cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面から2cm以上、背面から5cm以上のすきまをあけてください。内部に熱がこもり火災の原因となります。

●電源ケーブルの上に重いものをのせたり、ケーブルが本機の下敷にならないようにしてください。ケーブルに傷がついて火災・感電の原因となります。
●この機器の通風孔、ディスク挿入口などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。
●この機器の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合火災・感電の原因となります。
●この機器の上に、ろうそく等の炎が発生しているものを置かないでください。火災の原因となります。

分解禁止

●この機器の裏ぶた、キャビネット、カバーは絶対外さないでください。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。
●この機器は改造しないでください。火災・感電の原因となります。

●電源ケーブルを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったりしないでください。ケーブルが破損して、火災・感電の原因となります。

ACアウトレット（電源コンセント）付き機器のみ

●この機器のACアウトレットが供給できる電力は背面パネルに表示されております。接続する装置の消費電力の合計が表示されているW（容量）を超えないようにしてください。火災の原因となります。電熱器具、ヘアドライヤー、電磁調理器などは接続しないでください。また、供給電力以内であっても、電源を入れたときに大電流の流れる機器などは、接続しないでください。

注意

●調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
●ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。
●電源ケーブル、スピーカーコードを熱器具に近づけないでください。コードやケーブルの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
●窓を閉めきった自動車の中や直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。キャビネットや部品に悪い影響を与え、火災・感電の原因となることがあります。
●湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

●電源を入れる前には音量（ボリューム）を最小にしてください。突然大きな音がでて聴力障害などの原因となることがあります。

電池を使用する機器のみ

●電池を機器内に挿入する場合、極性表示プラス⊕とマイナス⊖の向きに注意し、表示通りにいれてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

●万一の事故防止のため、この機器を電源コンセントの近くに置き、すぐに電源コンセントからプラグを抜けるようにしてください。

●旅行などで長期間、この機器をご使用にならないときは安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
●お手入れの際は安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

●5年に一度くらいは機器内部の掃除を販売店などにご相談ください。機器の内部にほこりがたまったまま、長時間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については販売店にご相談ください。

●アンテナ工事には、技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください。
※送配電線から離れた場所に設置してください。アンテナが倒れた場合、感電の原因となることがあります。

●濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。
●電源プラグを抜くときは、電源ケーブルを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。

●移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、アンテナ線、機器間の接続ケーブルなど外部の接続ケーブルを外してから行ってください。ケーブルが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

●お子様がディスク挿入口に、手を入れないようにご注意ください。けがの原因となることがあります。

Safety Information

スピーカー部について

警告
●スピーカーコードの上に重いものをのせたり、コードが製品の下敷きにならないようにしてください。また、壁や棚などの間にはさみ込んだりしないでください。スピーカーコードを傷つけて火災の原因となります。
●スピーカー内部に金属片や異物などを落とさないでください。ショートや発熱などを起こし、火災の原因となります。
●スピーカーコードを熱器具や白熱灯の近く、直射日光のあたるところには近づけないでください。ケーブルの被覆が溶けて、火災の原因となります。
●スピーカーコードを人が通るところなど引っ掛かりやすい場所に這わせないでください。つまずいて転倒したり、スピーカーが落下し、けがや事故の原因となります。
●＜本製品＞を分解したり改造しないでください。破損や火災の原因となります。
●熱器具や白熱灯の近く、直射日光のあたるところには設置しないでください。そのような場所で使用しますと、火災の原因となります。

注意
●ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所は避けて置いてください。また、設置場所の強度は重みに耐えられるものにしてください。落下して、けがや事故の原因となります。
●スピーカーを高いところに設置される場合には、作業が不安定になりますので作業には十分ご注意ください。けがや事故の原因となります。
●定格を超える入力を入れた状態や長時間音が歪んだ状態で使用しないでください。スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。
●高いところに設置される場合には、不意な衝撃に対して落下しないよう固定してください。固定しないまま使用しますと、落下し、けがや事故の原因となります。
●取付金具をご使用になる場合は、ご使用になるスピーカーに対応しているボーズ社製の金具をご使用ください。他メーカーの金具や、対応外の金具を使用するとスピーカーの破損や落下のおそれがあります。
●ポートの中に手や体の一部を入れないでください。けがの原因となることがあります。

Contents

Introduction

ご使用の前に

この度はボーズ社3·2·1Ⅱ/3·2·1GSⅡホームシアターシステムをお買い上げいただきましてありがとうございます。シンプルなシステムですので、今までのホームシアター製品のようにセッティングに苦労する必要がありません。
また、本機の取扱説明書は3点から構成されています。
・クイックセットアップガイド
・セットアップ・デモ用ディスク(約10分間)
・本書(より詳しい内容をお知りになりたい場合にご覧ください)
クイックセットアップガイドとセットアップ・デモ用ディスクで、すぐに最高のホームシアターをお楽しみ頂けます。

3・2・1Ⅱ/3・2・1GSⅡシステムの内容

・小さな筐体に集約されたAM/FMチューナー、DVD/CDプレーヤー
・インテリア性の高いジュエルアレイ/イメージアレイ·スピーカー
・性能、デザイン共に優れたベースモジュール
・テレビ等の操作も可能な新型の赤外線リモート·コントローラー
・外部機器(ビデオデッキ、衛星チューナー等)を接続するための入力系統

再生できるディスクについて

3·2·1Ⅱ/3·2·1GSⅡのDVD/CDプレーヤーは、以下のタイプのディスクを再生できます。

・DVDビデオ

・音楽CD

・ビデオCD

・CD-R、CD-RW

・DVD±R、DVD±RW
※DVDビデオとして再生するには、ビデオモードでフォーマットしファイナライズする必要があります。但し、使用するディスクの特性・汚れ・キズまたは、ピックアップの汚れ・結露等により再生できない場合があります。

・MP3 CD
※全てのトラックは、ディスクアットワンス(シングルセッション)で書き込まれていること。
※ディスク・フォーマットは、ISO9660に準処していること。
※それぞれのファイルに、".mp3"の拡張子が付いていて、拡張子以外に"."を使っていないこと。

地域番号を確認してください

DVDプレーヤーとDVDディスクの地域番号(リージョンコード)が合っていなければ使用できません。地域番号はそれらの機器、DVDディスクが使用される国または地域ごとに割り当てられています。本機の場合はリージョンコードは「2」です。DVDディスクはジャケットやケースなどに記載されています。日本で視聴できるディスクには右のような記号があります。
また、業務用ディスクの中には、本機での再生が禁止されているものがあります。

   など

この取扱説明書の使い方

表記上の区別のしかた

ボタン名…ボタンの名称は**太字**で書いてあります。ボタンに記号や文字がついている場合は、ボタンのイラストだけで書かれている場合もあります。

オンスクリーンディスプレイメッセージ(上下にラインあり)…画面上メッセージは、**太文字で、さらに上下にラインを付けて**表記しています。

メディアセンターディスプレイの内容…表示される文字や記号は**太字の英大文字**で記載しています。

この取扱説明書で使用されている用語の説明

AAC…正式にはMPEG-2 AACと言い、映像圧縮標準規格MPEG-2、またはMPEG-4で使われる高圧縮率のオーディオ圧縮方式。国内では、BSデジタル放送や地上デジタル放送の音楽圧縮技術としても採用。なお、MPEG-2 AACは、MPEG-1オーディオとの互換性はない。

DD D、DD DOLBY DIGITAL…ドルビー研究所によって開発された音声圧縮技術のドルビーデジタルの登録商標ロゴマーク。ドルビーデジタル方式の音声圧縮はDVDビデオでは最も一般的な音声圧縮方法。

DIGITAL dts SURROUND…DVDディスクで採用されているマルチチャンネルサラウンド音声の圧縮方式の一つ。

DVD…12cmおよび8cmの光ディスクを使用した映画、音楽、コンピューターなど様々な用途に応用される大容量光ディスクの規格。デジタル・ビデオ・ディスクまたはデジタル・バーサタイル・ディスクの頭文字。
※8cmディスクには対応していません。

DVDビデオ…読み出し専用DVDにビデオ(動画や音声)を収録する規格のこと。画像にMPEG-2、音声にDolby AC-3の圧縮方式を用いて、片面1層のディスクに2時間程度の映画を1本収録できる。音声は、リニアPCM、MPEGオーディオ、DTS等がある。ユーザーが好みのカメラアングルを選択再生できるマルチアングル機能や、最大8ストリームの音声、最大32カ国語の字幕スーパーを選択再生できるマルチランゲージ機能など、多くの機能を持っている。

IR…赤外線(infrared)の頭文字。リモコンの信号をやりとりする方式のうちの一つ。

MPEG…ディスクに音声や映像を記録するためのデータ圧縮方式の一つ。

MP3…MPEG Audio Layer 3を略したもの。MPEGオーディオの1方式。

NTSC…テレビジョン放送方式のうちの一つ。アメリカのテレビジョンシステム委員会がきめた標準方式のことで、アメリカをはじめ日本やカナダ、メキシコで、この方式を採用している。白黒放送を継承し走査線数525本、フィールド数毎秒60枚(フィールド2枚で1フレーム=画面)。National Television System Committee(全国テレビジョンシステム委員会)の頭文字。

PAL…テレビジョン放送方式のうちの一つ。Phase Alternation by Lineの頭文字。PAL方式は、ドイツ、イギリスなどヨーロッパと、アジア・アフリカ諸国の大部分、それに中国で採用されている。走査線数625本、フィールド数毎秒50枚。

PCM…アナログ信号を圧縮せずに、デジタルでコード化された信号。これはCDおよびレーザーディスクに使用されたデジタルオーディオ信号の形式です。

S映像信号…2回路分の4ピンのミニDINを使用し、輝度信号と色信号の2つに分けて伝送する規格。輝度信号と色信号を別にしているため、コンポジットに比べると画質がよい。ほとんどのテレビはSビデオ入力端子を装備している。

アスペクト（縦横）比…テレビ画面の横（幅）と縦（高さ）の比率。従来の標準テレビ画面は4:3で、ワイドテレビの画面が16:9である。

コンポジット映像信号…輝度、色および同期情報を含んでいる、一本のビデオ信号。NTSCとPALはコンポジット映像信号の種類。

コンポーネント映像信号…色差信号とも言われ、色信号(C)をB-Y色差信号Cb(Pb)とR-Y色差信号Cr(Pr)に分けて伝送する信号。通常NTSC(480i)レベルの信号の端子を[Y/Cb/Cr]と表示し、NTSCレベル以上の映像フォーマットが使用できる端子を[Y/Pb/Pr]と表されている事が多く、基本的にHDTV(720P,1080i等)まで伝送できるようになった。したがって[Y/Pb/Pr]コンポーネント映像端子は、ハイビジョン端子と呼ぶ事もある。

タイトル…ビデオクリップの集合。チャプターが集まったものがタイトルで、タイトルが集まったものが一枚のディスク。ただし、一つのチャプターで構成されるタイトルもあれば、一つのタイトルで構成されるディスクもある。

チャプター…DVDでの正式な用語ではpart of title(パートオブタイトル：PTT)と呼ぶ。チャプターが入っているディスクでは、見たいシーンのサーチができる。

トラック…オーディオ・テープやディスクに記録された選択できる個々のデータの単位。CDでは 曲（1トラック目=1曲目）ともいう。

ビデオCD…映像と音声データをVideoCD規格に準拠してCD上に記録したもの。圧縮方式は、MPEG-1形式で標準的な650MBのCDに約70分の映像を記録できる。画質はVHSビデオ程度。

プログレッシブスキャン…順次走査方式のこと。走査線を上から順に表示する方式。飛び越し走査（インターレース）方式に比べ、画質のちらつき感の少ない映像になる。

レターボックス…標準（4:3）の画面に16:9の映画などの左右を画面いっぱいに映して上下に余白を入れる表示モード。このモードでは縦横比が正しく、全ての映像が表示されることになるが、上下に黒い帯が入り、表示面積が小さくなってしまう。

内容物の確認

箱や梱包材は、後日修理やメンテナンス等が必要になった場合のために保管しておくことをおすすめします。

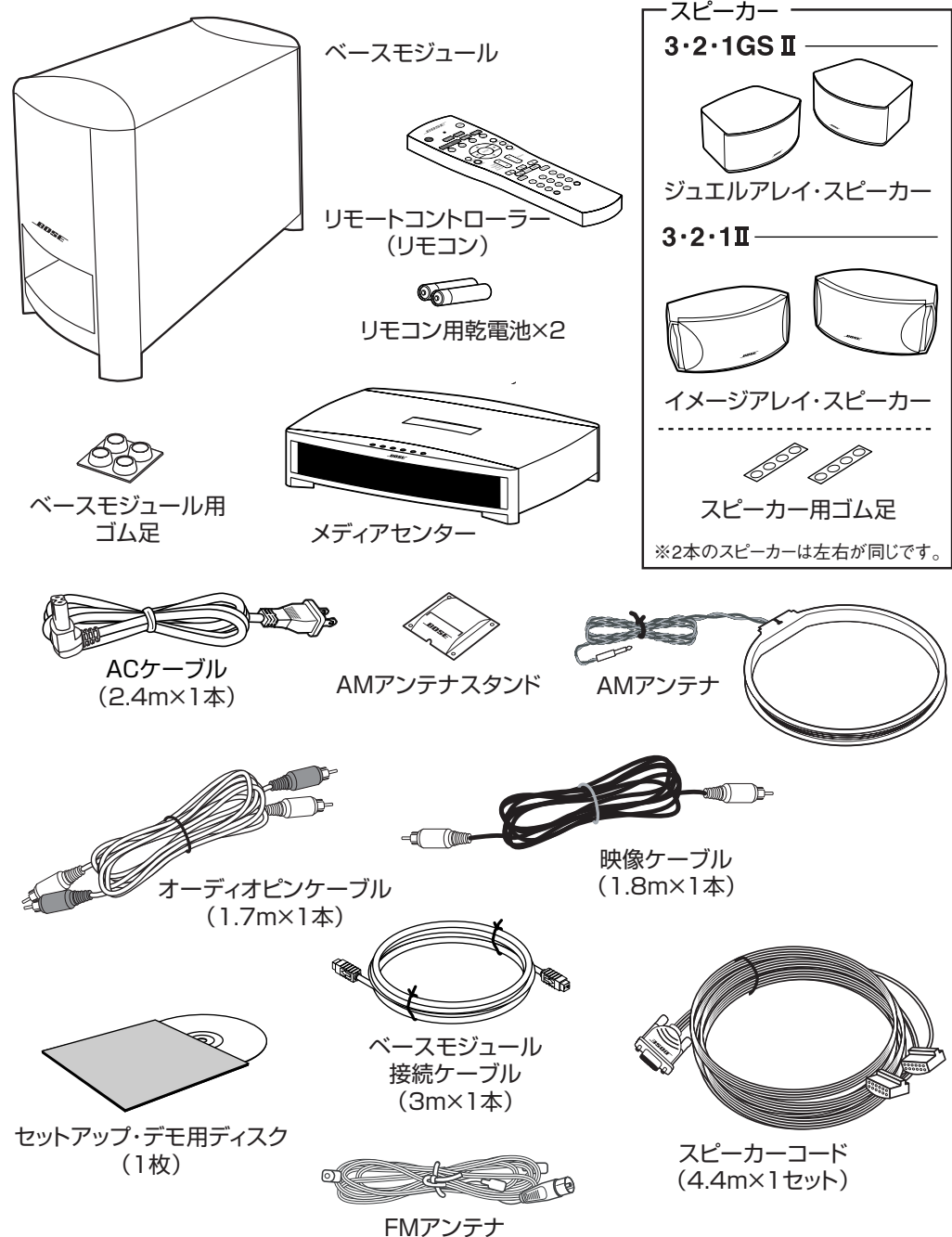
もし、開梱時に損傷などが発見された場合や内容物が不足しているときは、そのままの状態を保ち、ただちにお買い上げになった販売店までご連絡ください。そのままでのご使用はおやめください。

⚠ **警告：** 窒息する危険がないように、製品を包んでいたビニール袋は子供の手の届かない場所に保管してください。

図1
内容物

製品のゴム足について

⚠ **注意**

- ゴム足は素材の性質から、設置面の塗料によっては、移行または汚染を示す可能性あります。事前にご確認のうえご使用ください。
- 付属のゴム足は高摩擦性を有している分、塗装面との接触面に密着しやすい性質を持っております。接触面の一部を剥がしてしまう可能性も有りますので、事前にご確認のうえご使用ください。

設置方法

下記のガイドラインに従ってスピーカー、ベースモジュールならびにメディアセンターの置き場所を選んでください。

♪：ここに示した設置のガイドラインは製品の性能を最大限に生かすためのものですが、これを参考にご自分の好みやお部屋の状況に応じてより良い設置場所を探していただいてもかまいません。

このシステムで電源コンセントに接続するのはベースモジュールだけです。2本のスピーカーとメディアセンターは電源コンセントに接続しません。電源コンセントとの関係を考える場合はベースモジュールから電源コンセントの距離だけを考えるだけですみます。

スピーカーの設置

よい環境にスピーカーを設置できれば製品の性能を最大限に生かした、音響特性やサラウンド感を堪能できます。

・スピーカーは必ず正面を向けて設置してください。内側に向けたり、外側に向けたりしない方がより良い結果が得られます。

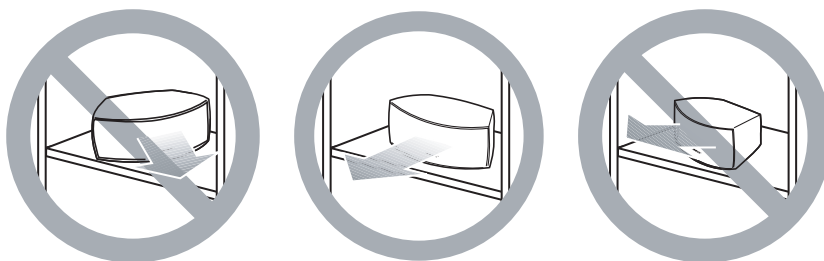
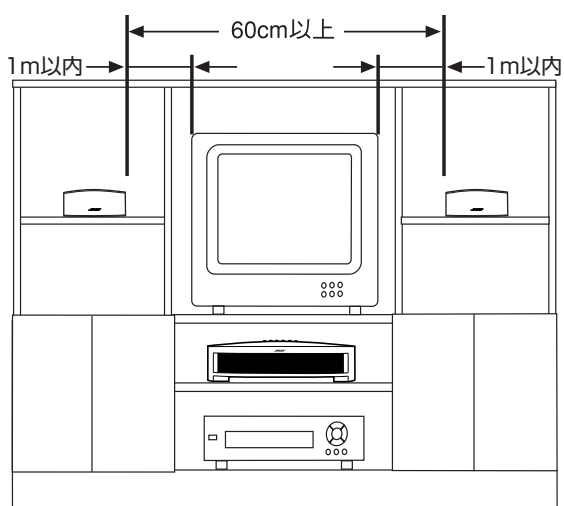
図2
スピーカーの設置

・書棚やテレビラックなどの上に置く場合は、必ずスピーカーを棚の前面部に設置してください。書棚の奥の方に設置してしまうと、せっかくのサラウンド感などが損なわれてしまう原因になります。

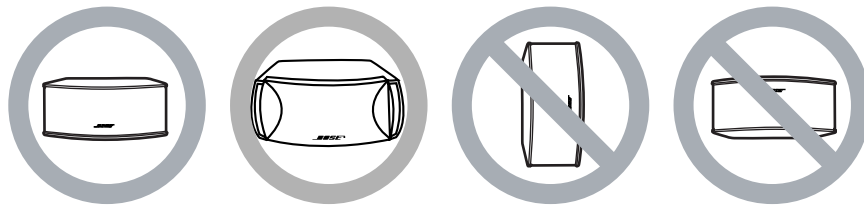
図3
スピーカーを平らな棚に置く場合

⚠ 警告
スピーカーを設置する部分がガラスや磨き込んだ板、つるつる滑るような材質のものの上などは、スピーカーが音を出したときの振動などで滑って落下する恐れがあります。このような場所に設置する場合は必ず付属のゴム足を使用して、落下しないように安全に設置してください。

・テレビのブラウン管の上に置く場合や、テレビスクリーンの左右に設置する場合は画面の両端から左右等距離になるように設置します。

♪：スピーカーはテレビの近くに設置しても画面に影響がでないような防磁型になっています。

・スピーカー同士の距離はすくなくとも60cm 離してください。ただし、映像と音声とがバラバラになり過ぎないように、画面の両端からは1m以内を目安に設置するようにしてください。

・左右のスピーカーは、同じ高さになるように設置してください。
このスピーカーは、底面が必ず下になるように設置するように設計されています。また、その向きで使用できるようなテーブルスタンド、フロアースタンドも別売でご用意しています。

図4
スピーカーを設置するときの向き

♪：上下を逆にしたり、縦にして使用すると、本製品のサラウンド効果が著しく低下します。必ず水平に上下左右を正しく設置するようにしてください。

♪注意：3・2・1Ⅱ/3・2・1GSⅡシステムは、その独自のサラウンド再生方法により音の左右を間違えると全く効果が得られなくなります。くれぐれも右に設置されたスピーカーには右用のスピーカーコードを、左に設置されたスピーカーには左用のスピーカーコードを接続してください（14ページ参照）。

メディアセンターの設置

ディスクトレーの開閉を妨げるものがない場所にメディアセンターを設置してください。
付属のケーブル類でベースモジュールやスピーカーまで届く範囲であることを確認してください。また、その他の外部機器(テレビ、ビデオデッキ、地上デジタル/BSデジタルチューナー)と接続する場合は接続するための市販のケーブルを用意して、そのケーブルが届く範囲であることも確認してください。

ベースモジュールの設置

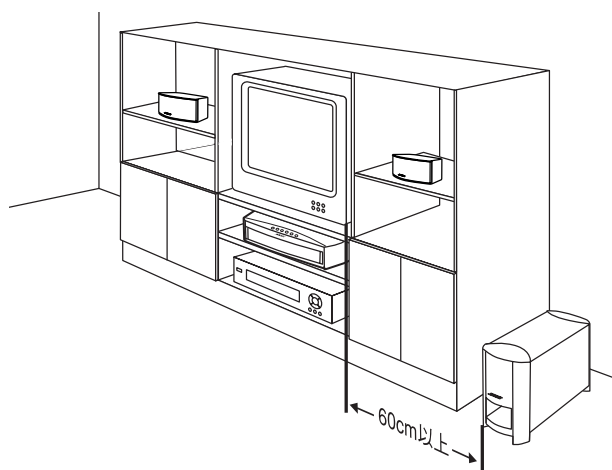
次のことを確認して設置してください。

・メディアセンターおよびACコンセントまで付属のケーブル類が届く距離にあること。

・設置しようとする場所が、テレビやスピーカーが設置してあるのと同じ側であること。

・ベースモジュールは非防磁のスピーカーなので、ブラウン管を使用しているテレビの場合は画面に影響を与えないように少なくとも60cmは離れていること（機種とブラウン管のサイズによって異なります）。

図5

ベースモジュールとテレビの間は60cm以上空けます

⚠ 注意：ベースモジュールは防磁処理がされていません。そのため、ビデオテープ、カセットテープ、その他磁気による記録媒体を直接あるいは近接した場所に保管すると内容が消えたり、再生できなくなる場合があります。

設置場所が決定したらベースモジュール用ゴム足をベースモジュールの4スミの足の中央部分のくぼみに取り付けてください。

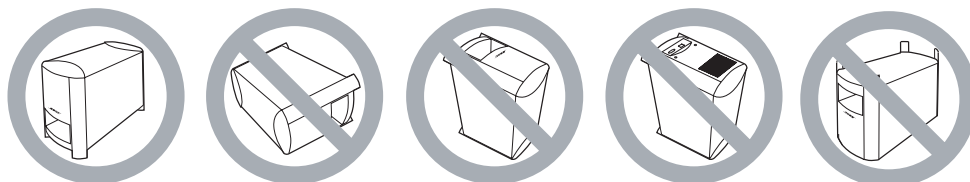
ポートと換気開口部をふさがないようにしてください。

・ベースモジュールには、熱源となるアンプが内蔵されています。テーブルの下や、ソファーの陰などに設置してもかまいませんがその際、家具やカーテンがベースモジュール背面の換気開口部をふさがないように十分気をつけてください。

・ベースモジュールは効率良く低音エネルギーが得られるように、ポート（正面にある開口部）がふさがらないように部屋に向けるか、または壁に沿うように置きます。

・ベースモジュールは底面が下になるように設置します。

図6

ベースモジュールを設置するときの向き

⚠ 注意：
・横倒し、天地逆には設置してはいけません。
・ベースモジュールの背面のスリット部分からの空気で内部の機器の冷却を行っていますので、決してベースモジュール背面スリットをふさがないようにしてください。

接続について

⚠ 注意：すべての結線が済むまでは、ACケーブルをコンセントに接続しないでください。

接続の手順

1. メディアセンターとベースモジュールを接続します。

図7

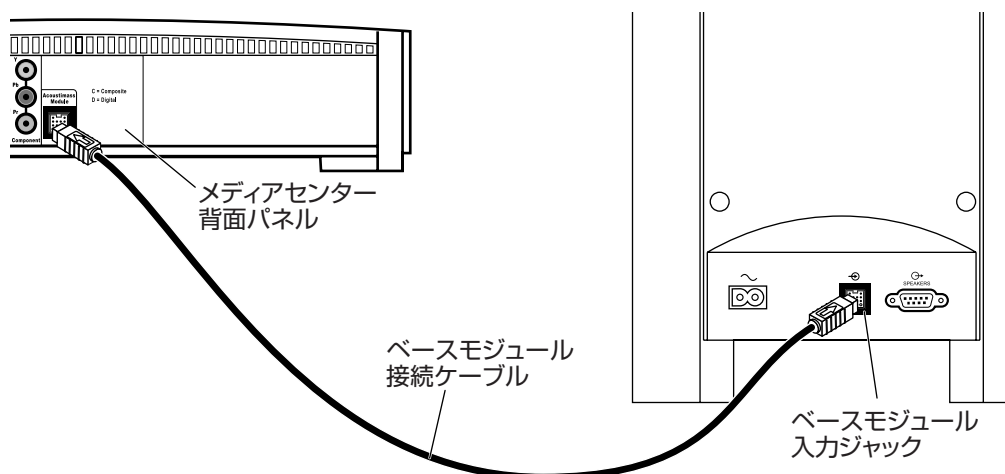
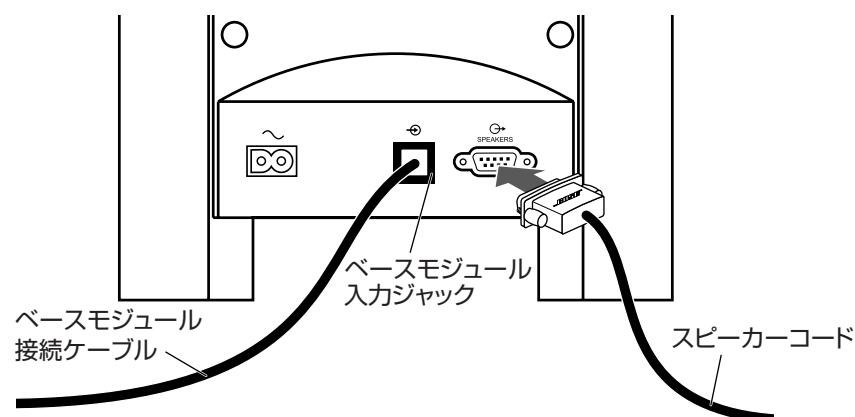
メディアセンターと
ベースモジュールの接続

2. ベースモジュールとスピーカーコードを接続します。

図8

ベースモジュールへの
スピーカーコードの接続

♪：スピーカーコードのプラグを固定するときにコネクター左右のネジを締めると、接触不良や抜けなどのトラブルを防ぐ事ができます。このプラグはしっかり差し込んでも、通常若干の隙間が生じます。また、ネジを締める時にドライバー（ネジ回し）を使うと破損する場合がありますので、必ず手で締めるようにしてください。このプラグは手で締める力で十分固定できるようになっています。ネジをゆるめる場合はドライバー（ネジ回し）を使用してもかまいません。

3. スピーカーコードの反対側は、2個のスピーカーの間隔に応じて、両手でゆっくりと引き裂いてください。

4. コネクターにLEFTと書かれている方は、視聴する場所から向かって左側に置くスピーカーに接続します。同様にコネクターにRIGHTと書かれている方は、右側に置くスピーカーに接続します。

図9

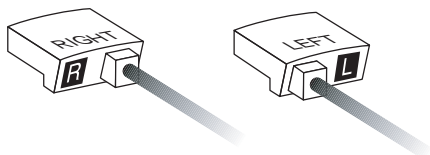
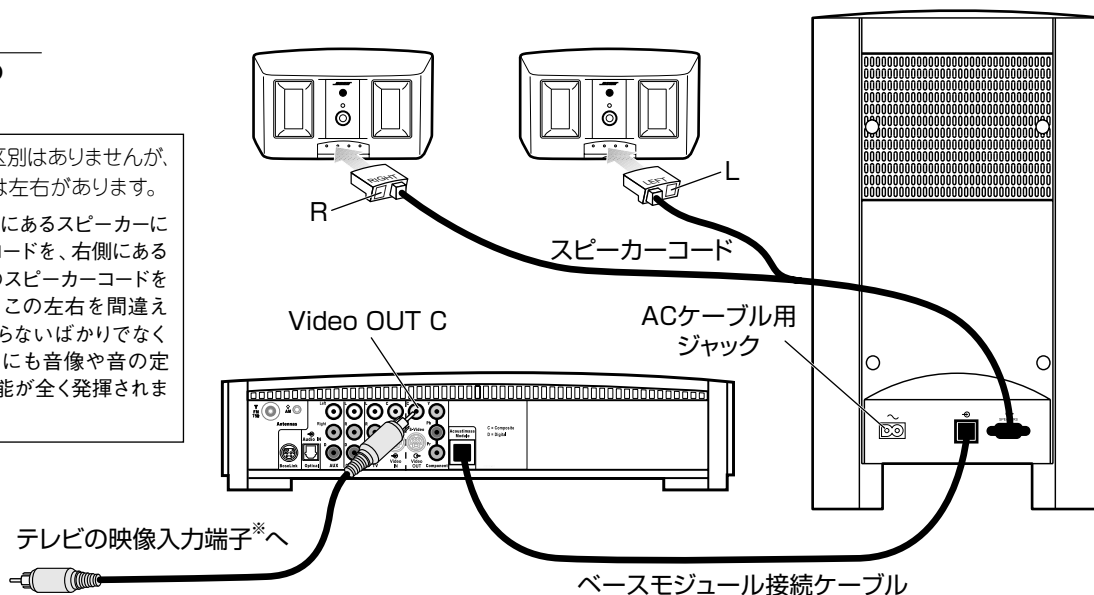
スピーカーコネクターの左右のマーク

♪注意：3・2・1Ⅱ/3・2・1GSⅡシステムは、その独自のサラウンド再生方法により音の左右を間違えると全く効果が得られなくなります。くれぐれも右に設置されたスピーカーには右用のスピーカーコードを、左に設置されたスピーカーには左用のスピーカーコードを接続してください。

図10

メディアセンターへの基本的な接続

スピーカーに左右の区別はありませんが、スピーカーコードには左右があります。

※テレビに向って左側にあるスピーカーに左用のスピーカーコードを、右側にあるスピーカーに右用のスピーカーコードをつないでください。この左右を間違えるとサラウンドにならないばかりでなくステレオで聴くときにも音像や音の定位などの本来の性能が全く発揮されません。

5. メディアセンター背面の**Video OUT C**に付属の映像ケーブル（黄色のピンケーブル）を差し込んで、反対側をご使用になるテレビの黄色の映像入力端子に接続します。

※S映像ケーブルでテレビに接続する（16〜19ページ参照）

多くのテレビに採用されているS映像入力端子に接続する場合、メディアセンターの背面の**Video OUT S-VIDEO**に市販のS映像ケーブルを差し込んで、反対側をご使用になるテレビのビデオ入力端子のS映像入力端子に接続します。S映像信号は通常のコンポジット信号（黄色のピンケーブル）による接続よりもより高画質な映像が楽しめます。

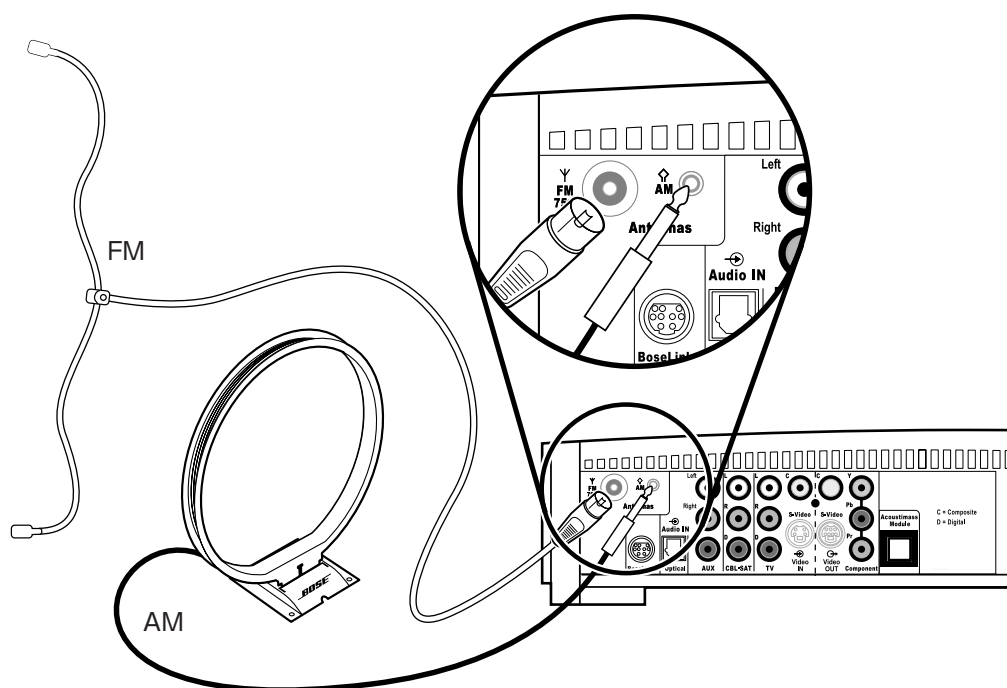
※コンポーネント映像ケーブルでテレビに接続する（20〜21ページ参照）

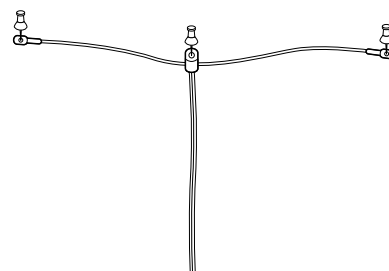
メディアセンター背面のコンポーネント出力端子（Y、Pb、Pr）に市販のコンポーネント映像ケーブルを差し込んで、反対側をご使用になるテレビのコンポーネント映像入力端子に接続します。コンポーネント信号は映像信号を3つに分けて送るため（Y、Pb、Pr）、さらに質の高い映像が得られます。接続するテレビの入力端子がD端子の場合は市販のコンポーネント映像ケーブル(D-ピンプラグ×3)を使います。

付属アンテナの接続

メディアセンターの背面にAMとFMのアンテナ接続ジャックがあります。アンテナ線は丸めたりせずに、必ずのばした状態でご使用ください。

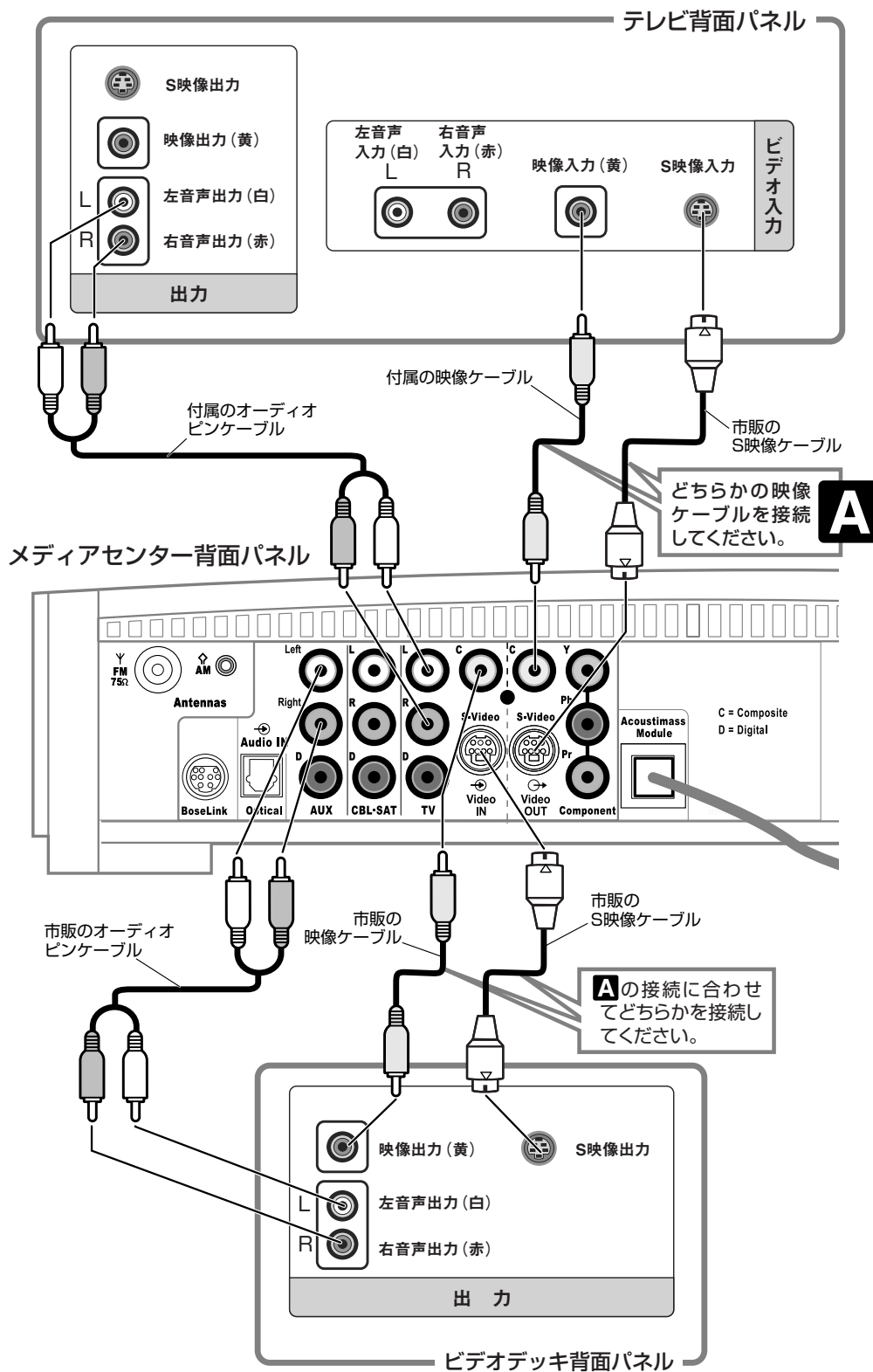
図11

AMアンテナとFMアンテナを接続

FMアンテナの接続

メディアセンターのFMアンテナジャックに付属のFMアンテナのプラグを奥までしっかり差し込みます。
アンテナアームを広げます。アンテナの向きや高さをいろいろ試してみて最良の受信状態が得られる設置場所を探してください。また、アンテナはメディアセンターや他の機器からできるだけ離して設置してください。

AMアンテナの接続

1. メディアセンターのAMアンテナジャックに付属のAMアンテナのプラグを奥までしっかり差し込みます。
2. アンテナのループを可能な限りメディアセンターや他の電子機器から離してください。少なくともメディアセンターからは50cm以上、ベースモジュールからは1.2m以上離すようにしてください。
3. アンテナの向きをいろいろ試して感度が良くなる方向と設置場所を探して、付属のAMアンテナスタンドに取り付けて立てて固定するか、そのまま壁などに固定してください。できれば窓際が比較的良好な状態で受信できます。

テレビ、ビデオデッキの接続1

テレビに映像入力が1系統しかない場合

	テレビの操作	ビデオデッキの操作	メディアセンターの操作
テレビを見る	テレビのチャンネルを見たい番組に合わせる		テレビに切り替えるリモコンの**TVボタン**を押す
ビデオを見る	メディアセンターを接続した入力（ビデオ）に切り替える	ビデオを再生する	AUXに切り替えるリモコンの**AUXボタン**を押す
DVDを見る	メディアセンターを接続した入力（ビデオ）に切り替える		DVDを再生する（29ページ参照）

A 映像信号の接続について

テレビの映像入力端子とメディアセンターを接続する映像ケーブルは、付属の映像ケーブル（黄色のピンケーブル）をご使用ください。より高画質で楽しみたい場合は、市販のS映像ケーブルを別途ご用意いただき接続してください。

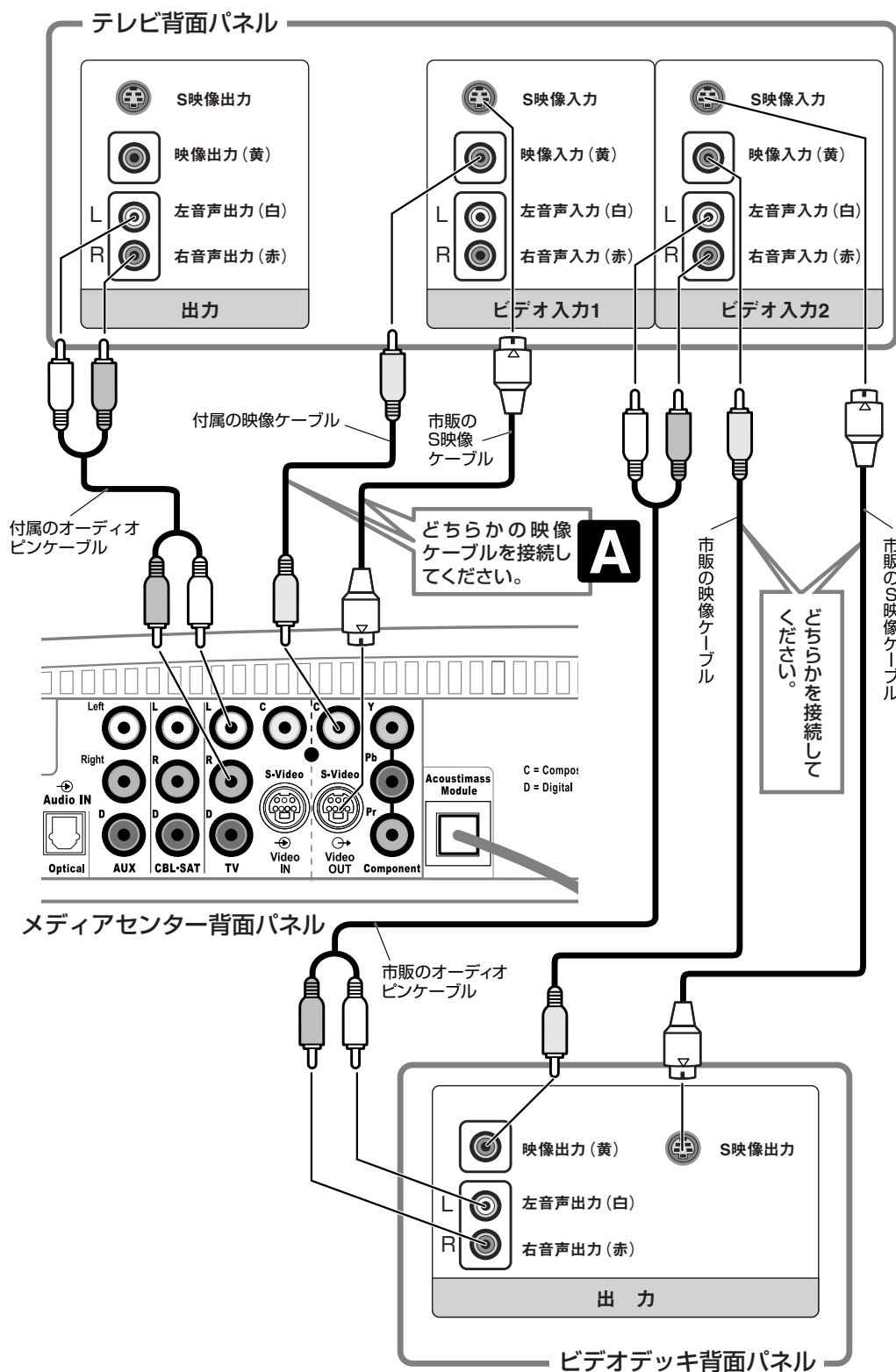
♪注意：メディアセンターの映像出力端子とビデオデッキの映像入力端子は接続しないでください。DVDビデオを再生した場合著作権保護の影響により画面が乱れる事があります。

♪注意：メディアセンターの映像出力端子とテレビの映像入力端子を映像ケーブル（黄色）で接続している場合は、ビデオデッキの映像出力端子とメディアセンターの映像入力端子との接続も映像ケーブル（黄色）で接続してください。
メディアセンターの映像出力端子とテレビの映像入力端子を市販のS映像ケーブルで接続している場合は、ビデオデッキの映像出力端子とメディアセンターの映像入力端子との接続もS映像ケーブルで接続してください。

テレビからの音声について

テレビの音声を3·2·1Ⅱ/3·2·1GSⅡシステムで楽しむ場合、テレビに付いているスピーカーから音が出ないように設定します。テレビの設定で内蔵スピーカーを使用しないように設定してください。もし、テレビに内蔵スピーカーを切る設定がない場合は、テレビのボリュームを最小にしておきます。テレビの設定についての詳しい内容はテレビの取扱説明書をご覧ください。

テレビ、ビデオデッキの接続2

テレビに映像入力が2系統以上ある場合

	テレビの操作	ビデオデッキの操作	メディアセンターの操作
テレビを見る	テレビのチャンネルを見たい番組に合わせる		テレビに切り替えるリモコンの**TVボタン**を押す
ビデオを見る	ビデオデッキを接続した入力（ビデオ2）に切り替える	ビデオを再生する	テレビに切り替えるリモコンの**TVボタン**を押す
DVDを見る	メディアセンターを接続した入力（ビデオ1）に切り替える		DVDを再生する（29ページ参照）

A 映像信号の接続について

テレビの映像入力端子とメディアセンターを接続する映像ケーブルは、付属の映像ケーブル（黄色のピンケーブル）をご使用ください。より高画質で楽しみたい場合は、市販のS映像ケーブルを別途ご用意いただき接続してください。

♪注意：メディアセンターの映像出力端子とビデオデッキの映像入力端子は接続しないでください。DVDビデオを再生した場合著作権保護の影響により画面が乱れる事があります。

テレビからの音声について

テレビの音声を3・2・1Ⅱ/3・2・1GSⅡシステムで楽しむ場合、テレビに付いているスピーカーから音が出ないように設定します。テレビの設定で内蔵スピーカーを使用しないように設定してください。もし、テレビに内蔵スピーカーを切る設定がない場合は、テレビのボリュームを最小にしておきます。テレビの設定についての詳しい内容はテレビの取扱説明書をご覧ください。

テレビ、HDD DVDレコーダー、地上デジタル/BSデジタルチューナーとの接続

DVDビデオとデジタルチューナーはコンポーネント接続でよりきれいな映像で楽しみ、地上デジタル/BSデジタルチューナーからの音声をデジタルでメディアセンターに入力してAACなどのデジタル音声放送を楽しめます。

	テレビの操作	HDD DVD レコーダーの操作	地上デジタル/BSデジタルチューナーの操作	メディアセンターの操作
テレビを見る	テレビのチャンネルを見たい番組に合わせる			テレビに切り替えるリモコンの**TVボタン**を押す
HDD DVDレコーダーの録画データを見る	メディアセンターを接続した入力(ビデオ1)に切り替える	録画データを再生する		AUXに切り替えるリモコンの**AUXボタン**を押す
地上デジタル/BSデジタル放送を見る	デジタルチューナーを接続している入力(D端子入力2)に切り替える		見たい番組に※1チャンネルを合わせる	CBL・SATに切り替える(光デジタル接続の割当設定要)※2リモコンの**CBL・SATボタン**を押す
DVDを見る	メディアセンターを接続している入力(D端子入力1)に切り替える			DVDを再生する(29ページ参照)

※1　メディアセンターは、AACデコーダーを内蔵しています。デジタル出力はAACデジタル信号のまま出力するように設定してください。詳しい使い方は、その機器の取扱説明書をご覧ください。

※2　39ページの"メディアセンター設定"の"光デジタル入力"の項目を選び、CBL・SATに光デジタル接続を割り当ててください。

A 映像信号の接続について

テレビの映像入力端子とメディアセンターを接続する映像ケーブルは、付属の映像ケーブル(黄色のピンケーブル)をご使用ください。より高画質で楽しみたい場合は、市販のS映像ケーブルまたはコンポーネント映像ケーブル(D-ピンプラグ×3)を別途ご用意いただき接続してください。

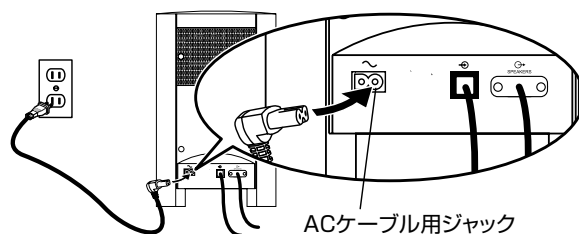
♪注意：メディアセンターの映像出力端子とビデオデッキの映像入力端子は接続しないでください。DVDビデオを再生した場合著作権保護の影響により画面が乱れる事があります。

♪注意：メディアセンターの映像出力端子とテレビの映像入力端子を映像ケーブル(黄色)で接続している場合は、ビデオデッキの映像出力端子とメディアセンターの映像入力端子との接続も映像ケーブル(黄色)で接続してください。
メディアセンターの映像出力端子とテレビの映像入力端子を市販のS映像ケーブルで接続している場合は、ビデオデッキの映像出力端子とメディアセンターの映像入力端子との接続もS映像ケーブルで接続してください。

テレビからの音声について

テレビの音声を3・2・1Ⅱ/3・2・1GSⅡシステムで楽しむ場合、テレビに付いているスピーカーから音が出ないように設定します。テレビの設定で内蔵スピーカーを使用しないように設定してください。もし、テレビに内蔵スピーカーを切る設定がない場合は、テレビのボリュームを最小にしておきます。テレビの設定についての詳しい内容はテレビの取扱説明書をご覧ください。

最後にACコンセントに接続する

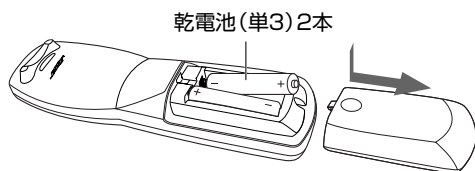
図12
最後にACケーブルを
コンセントに接続

はじめにベースモジュール背面のACケーブル用ジャックに付属のACケーブルを奥までしっかり差し込みます。その後に壁のコンセントにACプラグを差し込んでください。

リモコンの準備

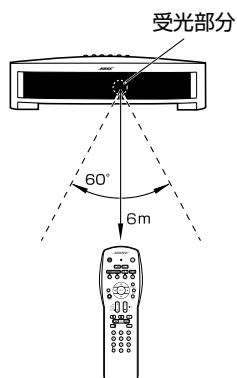
リモコンの電池の入れかた

1. リモコンを裏返しにしてバッテリーカバーを下に押し込みながら引き出すように電池ボックスを開けます。
2. ボックス内の表示に合わせて乾電池(単三型2本)を入れてください。
3. スライドさせるようにしてバッテリーカバーを閉めてください。

⚠ 注意：付属の乾電池は動作チェック用として同梱してあります。新品の乾電池よりは使用期間が短くなりますので、およそ1年後を目安に、新しい乾電池と交換してください。

図13
リモコンの電池の入れ方

⚠ 電池についての注意

- 乾電池の⊕と⊖の向きを電池ケースに表示されているとおりに正しく入れてください。
- 新しい乾電池と古い乾電池、または、種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 乾電池は絶対に充電しないでください。
- 長い間(1ヶ月以上)リモコンを使用しないときは、乾電池をリモコンから取り出しておいてください。
- 液漏れを起こしたときは、ケース内についた液をよくふき取ってから新しい乾電池を入れてください。

図14
リモコンの動作範囲

⚠ 使用上の注意

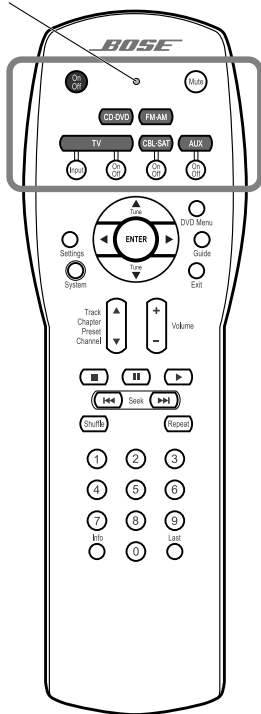
- メディアセンターの受光部に直射日光や照明の強い光が当たっていると、リモコンの操作ができないことがあります。
- 本機のリモコンを操作すると、赤外線によりコントロールする他の機器を誤動作させることがありますので、ご注意ください。
- リモコンとメディアセンターの受光部の間に障害物があったり、受光部との角度が悪いとリモコン操作ができないことがあります。

電池の交換時期について

リモコンの電池が消耗すると、リモコンの動作範囲が狭まってきて効きが悪くなってきます。このような症状が出てきたらリモコンの乾電池を2本とも新しい乾電池に交換してください。新品のアルカリ電池を使用すれば通常約2年程ご使用いただけます。

3･2･1 Ⅱ/3･2･1GS Ⅱ システムの使い方

リモコンのOn/Off ボタンを押すとメディアセンターの電源が入ります。このボタンはメディアセンターのOn-Off ボタンと同様の機能です。

♪ 注意：テレビ、ビデオデッキ、ケーブルテレビ/衛星チューナー等の外部機器電源のOn/Offは、3・2・1 Ⅱ/3・2・1GS Ⅱ のリモコンにあらかじめお手持ちの機器のメーカーに対応した設定コードを登録することで可能になります（27～28ページ参照）。

システムの電源をOn/Offします。

Status（ステータス）LED
- 通常は、消灯しています。
- リモコンのセットアップ中点灯していますが、ボタンを押す度に短く消灯します。
- リモコンのセットアップ中に誤ったボタンを押したり、存在しないコード番号を入力するとLEDが8回点滅して知らせます。
- 約10秒間どのキーも押さないとLEDが8回点滅してセットアップを終了し、LEDが消灯します。

ミュート（一時的消音）のOn/Offを行います。

内蔵CD/DVDプレーヤーを選択します。ディスクが挿入されている場合は再生されます。
このボタンでシステムの電源をOnできます。ミュートが働いている場合はミュートを解除します。

内蔵FM/AMチューナーを選択します。このボタンでシステムの電源を入れて、最後 に聞いていた放送局を選択します。また、FMとAMを切り替えるときに押します。ミュートが働いている場合はミュートを解除します。

TV…音源としてテレビ入力を選択します。このボタンでシステムの電源をOnできます。ミュートが働いている場合はミュートを解除します。

Input…テレビの外部入力を切り換えるときに押します※。

♪ 注意：このリモコンでコントロールできないテレビもあります。

CBL・SAT…音源としてCBL-SAT（ケーブルテレビ/衛星放送チューナー）入力を選択します。このボタンでシステムの電源をOnできます。ミュートが働いている場合はミュートを解除します。

On/Off…CBL・SATの電源をOn/Offします※。

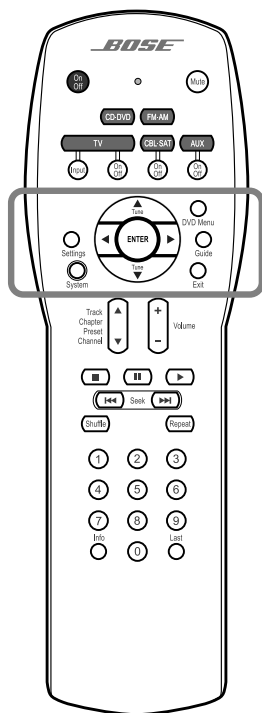
♪ 注意：このリモコンでコントロールできないケーブルテレビのチューナーや衛星放送チューナーもあります。

AUX…音源としてAUXに接続してある機器（ビデオデッキ等）を選択します。このボタンでシステムの電源をOnできます。ミュートが働いている場合はミュートを解除します。

On/Off…AUXに接続してある機器の電源をOn/Offします※。

♪ 注意：このリモコンでコントロールできない機器もあります。

※リモコンでテレビやビデオデッキ等をコントロールするには、リモコンにそれらの機器のコードを登録する必要があります(27～28ページ参照)。

Controls and Indicators

Settings

現在選択中のソース（音源）に関わる設定項目を表示します（33～36ページ参照）。画面を消すときは**Exit ○ ボタン**を押します。

System

システム設定項目画面を表示します（37～40ページ参照）。画面を消すときは**Exit ○ ボタン**を押します。

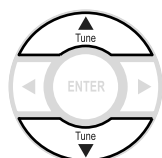
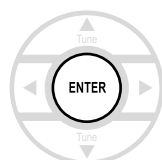
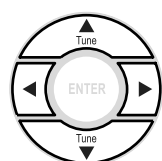
DVD Menu

現在ディスクトレーにあるDVDソフトにメニュー画面（ルートメニュー）がある場合、そのDVDソフトのメニュー画面を表示したり、メニュー画面を消すときに使用します。

Guide

接続しているテレビに番組ガイドを画面に表示する機能がある場合は、番組画面を表示します※。

Exit

音源に関わる設定項目、システム設定項目、番組ガイドなどを画面から消すときに使用します。

ラジオチューナー選択時、AM/FMラジオの受信周波数を上げ/下げするボタンです。オンスクリーンディスプレイを表示しているときは上下の項目を選択するときに使います。

他のボタンと一緒に使用して、カスタム設定や選択などを決定するときに使用します。また、このボタンを押すとサブメニューになる項目もあります。

オンスクリーンディスプレイまたは、メディアセンターディスプレイの表示をしているときは、上下左右の項目へ移動するときに使います。

※リモコンでテレビやビデオデッキ等をコントロールするには、リモコンにそれらの機器のコードを登録する必要があります(27～28ページ参照)。

Volume

ボリュームを調整するときに使用します。
＋を押すと音量が上がります。ミュートが働いているときはこのボタンで解除します。
ーを押すと音量が下がります。ミュートが働いているときはミュートが働いたままシステムの音量を下げます。

Track
Chapter
Preset
Channel

DVDではチャプターを、ラジオではプリセットステーション（あらかじめ記憶してある放送局）番号を、CDではトラック番号を進めたり、戻したりするときに使用します。また、テレビのリモコンとしてセットしてある場合はテレビチャンネルの選択も行えます(27〜28ページ参照)。

DVD以外ではディスクの再生を停止します。DVDの場合は、このボタンを押すとリジューム（続き再生メモリー）状態で停止します。もう一度押すと完全に停止します(29ページ参照)。

このボタンを押すと再生をポーズ（一時停止）します。そのまま20分経過すると自動的に再生を停止します。

このボタンを押すと再生を始めます。

Seek

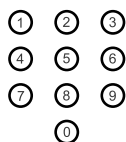
DVDのチャプターやCDのトラックを早戻し、早送りするときに使用します。ラジオの選局時にはシークチューニング（次の電波の強い放送局を受信して停止）を行います。

Shuffle

CDをセットした後に、このボタンを押すと順不同（Shuffle）に再生します。解除する場合はもう一度このボタンを押します。

Repeat

CDをセットした後に、このボタンを押すと1曲またはディスク全体を繰り返し（Repeat）再生します。ボタンを押す度に、**REPEAT TRACK**（1曲繰り返し）→**REPEAT DISC**（ディスク全曲繰り返し）→ **REPEAT OFF**（繰り返し解除）→**REPEAT TRACK**…と変わります。DVDの場合はチャプターやタイトルを繰り返し再生します。

1 2 3 4 5 6 7 8 9 0

数字ボタンは、直接DVDチャプター、CDトラックあるいはラジオのプリセット番号を呼び出すときに使用します。また、セッティング項目内の数値を変えるときにも使用します。また、テレビのリモコンとしてセットしてある場合は、テレビチャンネルの選択にも使えます(27〜28ページ参照)。

Info

ケーブルテレビチューナーや衛星放送チューナーが対応している場合は、表示のON/OFFを切り替えます。MP3 CDを再生している場合は、アーティストや、タイトル名をメディアセンターの表示部に表示させたり、消したりできます(30ページ参照)。

♪注意：メディアセンターの表示部は日本語によるアーティスト/タイトル名表示には対応しておりません。

Last

直前に見ていたチャンネルを呼び出せます（使用するテレビに機能がある場合）。

Controls and Indicators

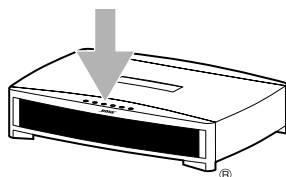
メディアセンター

メディアセンターには天面にコントロール(操作)パネル、前面右側にシステムの現在の状態を示すメディアセンターディスプレイ、前面左側にDVD/CD用ディスクトレーがあります。

コントロール(操作)パネルについて

コントロールパネルには6個のボタンがありますが、メディアセンターのすべての機能を使用するためにはリモコンの使用が必要になります。

図15

メディアセンターコントロールパネル

システムの電源をOn/Offします。

繰り返し押すことで希望するソース(音源)への切り換えを行います。

ボリュームを調整するときに使用します。+を押すと音量が上がります。ミュートが働いているときはこのボタンで解除します。−を押すと音量が下がります。ミュートが働いているときはミュートが働いたままシステムの音量を下げます。

設定の選択などを決定するときに使用します。また、FM/AMラジオ時、受信している放送局を空いているプリセット番号のところにプリセットします(31ページ参照)。

ディスクトレーを開閉するときに押します。

♪: メディアセンター上のSource ボタンでソース(音源)を切り替えた後でリモコンを使う場合には、リモコン上のソースボタンでもう一度そのソース(音源)を選んでから操作するようにしてください。その音源に切り替えるとリモコンで操作できるようになります。

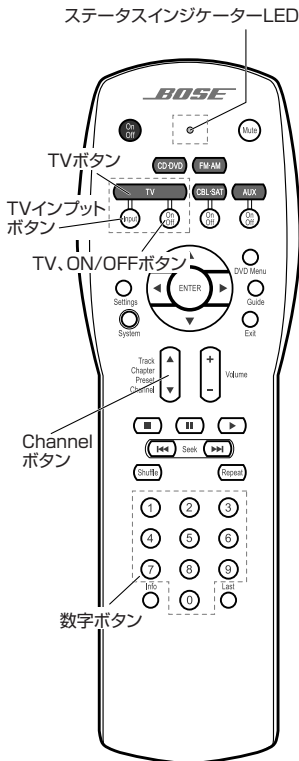
表示について

電源をOnにすると、メディアセンターディスプレイは現在の状態を表示します。下の図の表示がすべて点灯するわけではありません。動作しているモードや、状況に応じて必要なものが点灯するようになっています。

図16

表示部

リモコンの設定について

付属のリモコンは、外部の機器(テレビ、ビデオデッキ、ケーブル/衛星チューナー)の一部の機能をコントロールできるように設定できます。付属のセットアップ・デモ用ディスクの「リモコン設定」のチャプターでは、設定方法を画像つきで説明していますので、そちらもあわせてご参照なさることをおすすめします。

メーカーコード番号を入力して設定する方法

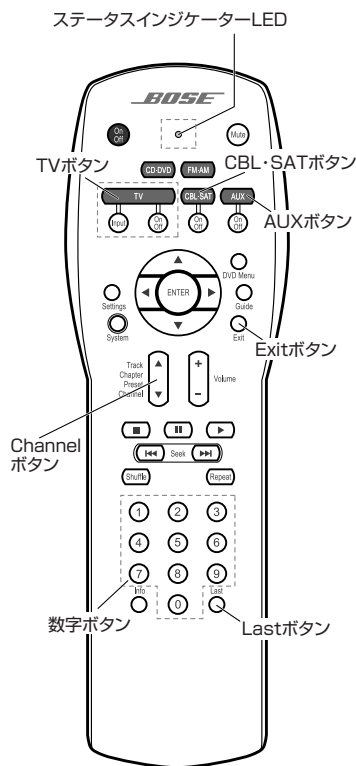
巻末の設定コード表より、外部の機器のメーカーコード番号を調べます。

・リモコンをお使いのテレビに合わせる場合

1. テレビと3·2·1Ⅱ/3·2·1GSⅡシステムの電源を入れます。
2. リモコンの**TVボタン**を、ステータスインジケーターLEDが点灯するまで押し続けます(約5秒)。
3. リモコンの**数字ボタン**を使って4桁のメーカーコード番号を入力していきます。
4. 4桁のメーカーコード番号を入力し終わると、インジケーターLEDが消灯します。このとき、LEDが点滅を繰り返した場合は、もう一度手順の「2」からやり直してください。
5. リモコンの**TV ON/OFFボタン**を押してテレビの電源がON/OFFできるか、**TVインプットボタン**を押してテレビの入力が切り換えられるか、**Channelボタン**や**数字ボタン**を押してテレビのチャンネルが切り換えられるかを確認してください。このときリモコンでこれらの操作ができない場合は、同じメーカーの別のコード番号を選んで手順の「2」からやり直してください。

   ※チャンネルの数字が2桁以上の場合、**数字ボタン**では入力できないことがあります。

・リモコンをお使いのビデオデッキに合わせる場合

1. テレビと3·2·1Ⅱ/3·2·1GSⅡシステムの電源を入れます。
2. リモコンの**AUXボタン**を、ステータスインジケーターLEDが点灯するまで押し続けます(約5秒)。
3. リモコンの**数字ボタン**を使って4桁のメーカーコード番号を入力していきます。
4. 4桁のメーカーコード番号を入力し終わると、インジケーターLEDが消灯します。このとき、LEDが点滅を繰り返した場合は、もう一度手順の「2」からやり直してください。
5. リモコンの**AUX ON/OFFボタン**を押して動作を確認してください。このときリモコンで操作できない場合は、同じメーカーの別のコード番号を選んで手順の 「2」からやり直してください。

・リモコンをお使いのケーブル/衛星チューナーに合わせる場合

1. テレビと3·2·1Ⅱ/3·2·1GSⅡシステムの電源を入れます。
2. リモコンの**CBL・SATボタン**を、ステータスインジケーターLEDが点灯するまで押し続けます(約5秒)。
3. リモコンの**数字ボタン**を使って4桁のメーカーコード番号を入力していきます。
4. 4桁のメーカーコード番号を入力し終わると、インジケーターLEDが消灯します。このとき、LEDが点滅を繰り返した場合は、もう一度手順の「2」からやり直してください。
5. リモコンの**CBL・SAT ON/OFFボタン**を押して動作を確認してください。このときリモコンで操作できない場合は、同じメーカーの別のコード番号を選んで手順の「2」からやり直してください。

・リモコンのChannelボタンや数字ボタン※を使って外部の機器（TV、CBL・SAT、AUXボタンに設定した機器）のチャンネルを変えられるようにするには

初期設定では、TVのチャンネルをリモコンの**Channelボタン**あるいは**数字ボタン**で変えることができます（27ページ参照）。TV以外の機器のチャンネルを変えるようにするには、次のように設定します。

1. **Lastボタン**を押し続けます。ステータスインジケーターLEDが点灯してから点滅する回数でチャンネル操作のできる機器を確認します。
   1回消える…TV　　2回消える…CBL・SAT　　3回消える…AUX
2. 点滅が終わったら切り換えたい機器が設定してある**ボタン(TV、CBL・SAT、AUX)**を押します。
3. **Exitボタン**を押して設定を終了します。

正しく設定されたか確認するために、**Lastボタン**を長押ししてLEDの点滅する回数を確認します。正しければ**Exitボタン**を押して終了します。

※チャンネルの数字が2桁以上の場合、**数字ボタン**では入力できないことがあります。

システムの電源のOn/Off

メディアセンターのコントロールパネル上の On-Off または、リモコンの On Off **ボタン**でシステムの電源をオン/オフできます。On-Off または On Off **ボタン**で電源を入れた場合、前回電源を切ったときのソース(音源)が自動的に選択されます。また、リモコンのソース選択のボタンで電源を入れた場合は電源が入ると同時にそのソースに切り換わります。

はじめてDVDを再生する前に

はじめてDVDを再生する前に次のことを確認してください。

・付属のリモコンの使い方を覚えましたか?
・DVDビデオディスクの地域番号(リージョンコード)が適切ですか?
(本機の地域番号は「2」です。「2」または「2」を含むものあるいは「ALL」と表示されたDVDビデオが再生できます。)
・テレビの入力切換は間違いなくメディアセンターからの入力を選択していますか?

DVDならではの機能を使用しようとしても、DVDソフトにその情報や機能が入っていない場合は使用することができません。例えば、カメラアングルを切り換えたくてもアングル情報がディスクに記録されていなければアングルを切り換えることはできません。また、サブタイトル(字幕など)を表示させようと思ってもその情報がディスクに記録されていなければ、本機のシステムで設定しても表示させることはできません。
DVDビデオの中には、ソフト制作者の意図により、本書の説明どおりに動作しないディスクがあります。ディスクのジャケットなどもご参照ください。

DVDディスクのセットと再生

1. テレビの電源と3・2・1Ⅱ/3・2・1GSⅡシステムの電源を入れます。
2. リモコンの**CD/DVD** CD·DVD **ボタン**を押します。
3. メディアセンターのコントロールパネルの**Eject** Eject **ボタン**を押してディスクトレーを出します。
4. ディスクトレーにDVDディスクをセットします。
5. メディアセンターのコントロールパネルの**Eject** Eject **ボタン**を押してディスクトレーを収納します。
   自動的に再生が始まります。もし、始まらない場合はリモコンの**Play** ▶ **ボタン**を押してください。

DVD再生時の基本的な操作

一時的に停止させたい・・・・・・・・・・・・ リモコンの**Pause** ‖ **ボタン**を押します。
停止させたい・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ リモコンの**Stop** ■ **ボタン**を押します。
チャプターを移動させたい・・・・・・・・ リモコンの**Chapter** Track Chapter Preset Channel ▲▼ を押して前後のチャプターを選びます。
チャプターの繰り返し再生をしたい・・・・ リモコンの**Repeat** Repeat **ボタン**をチャプター再生中に押します。
早戻し、早送りしたい(サーチ)・・・・ リモコンの**Seek** ⏮ Seek ⏭ **ボタン**を押し速さを選びます。
スロー再生したい・・・・・・・・・・・・・・・・ 一時停止中にリモコンの**Seek** ⏮ Seek ⏭ **ボタン**を押し向きと速さを選びます。

♪注意:DVD再生中に**Stop** ■ ボタンを押したり、他のソースのボタンを押すと現在再生しているところを記憶したまま停止したり他のソースに切り換わります(リジューム(続き再生メモリー)ストップ)。完全に停止させたい場合は**Stop** ■ ボタンを2回押してください。次回再生時DVDの初めから

CD/MP3 CDのセットと再生

1. リモコンの**CD/DVD** ボタンを押します。
2. メディアセンターのコントロールパネルの**Eject** ボタンを押してディスクトレーを出します。
3. ディスクトレーにCDをセットします。
4. メディアセンターのコントロールパネルの**Eject** ボタンを押してディスクトレーを収納します。
   自動的に再生が始まります。もし、始まらない場合はリモコンの**Play** ボタンを押してください。

CD/MP3 CD再生時の基本的な操作

一時的に停止させたい････リモコンの**Pause** ボタンを押します。

一時停止を解除したい････再びリモコンの**Pause** ボタンを押すか、リモコンの**Play** ボタンを押してください。

停止させたい････リモコンの**Stop** ボタンを押すか、メディアセンターの**Eject** ボタンを押します。

次のトラック(曲)へ移動したい････リモコンの**Track** **上**を押して次のトラックへ移動します。

再生中のトラック(曲)の頭の部分に戻りたい････数秒間再生の後、リモコンの**Track** **下**を押すと、現在再生中のトラックの頭に戻ります。

一つ前のトラック(曲)へ戻りたい････数秒間再生の後、リモコンの**Track** **下**を2回押すと、現在の一つ前のトラックの頭に戻ります。

早戻し、早送りしたい････リモコンの**Seek** または **ボタン**を押し続けます。

曲をシャッフル(順不同)に再生したい････CDをセットした後にリモコンの**Shuffle** **ボタン**を押します。

シャッフル(順不同)再生を解除したい････シャッフル再生モードのときにリモコンの**Shuffle** **ボタン**を押します。

1曲またはディスクをリピート(繰り返し)再生したい････CDをセットした後にリモコンの**Repeat** **ボタン**を押します。このボタンを押す度に表示部が、**REPEAT TRACK**(1曲繰り返し)→**REPEAT DISC**(ディスク全曲繰り返し)→**REPEAT OFF**(繰り返し解除)→**REPEAT TRACK**…と変わります。

リピート(繰り返し)再生を解除したい････**Repeat** **ボタン**を表示部に**REPEAT OFF**(繰り返し解除)が表示されるまで押します。

MP3 CD再生時にアーティストとタイトル名を表示させるには････MP3ミュージックファイルにアーティストとタイトル名が記録されている(ただし、英数字表記のみ)場合、リモコンの**Infoボタン**を長押し(約3秒)するとアーティスト/タイトル名とトラックナンバーをメディアセンターの表示部に交互に表示するように設定できます。元に戻す(トラックナンバーのみの表示)には**Infoボタン**をもう一度長押し(約3秒)します。

ラジオの使い方

リモコンの**FM・AM** FM·AM **ボタン**を押してラジオモードを選んでください。もし、システムの電源が切れていても、自動的に電源が入り、最後に聞いていた放送局を受信します。

選局のしかた

バンド(AMまたはFM)を・・・・換えたい	リモコンの**FM・AM** FM·AM **ボタン**を押して希望のバンドを選んでください。
受信状況の良い放送局を・・・・自動で選びたい	選局をはじめるまでリモコンの**Seek** ⏮ または ⏭ **ボタン**を押してください。選局を始めたら指を離します。自動的に放送局を選局します。すぐに選局を止めたいときはトンとリモコンの**Seek** ⏮ または ⏭ **ボタン**を一回だけ押してください。自動で選んだ後、すぐにまた自動選局をさせたい場合はリモコンの**Seek** ⏮ または ⏭ **ボタン**を一回だけ押してください。
手動で選局したい・・・・・・・・・・	リモコンの**Tune** **ボタン**を押して周波数をかえてください。
プリセットしてある放送局を・・呼び出したい	リモコンの**Preset** Track Chapter Preset Channel **ボタン**を押して希望のプリセット放送局を呼び出してください。あるいは、リモコンの数字ボタンを使って直接プリセットしてある放送局の番号を入力してください。

システムがAMあるいはFMモードのときに、利用可能なオプションの設定をソース(音源)設定画面で変更できます。ソース(音源)設定画面はリモコンの**Settings** Settings **ボタン**を押して画面に表示してください(33ページ参照)。その他の設定項目の内容についてはFM/AMの設定項目(35ページ)を参照してください。

プリセットチューニングのために放送局を登録します

よく聞く放送局をすぐに呼び出せるようにあらかじめ記憶させておくことができます。
プリセットできる放送局はFM 、AMそれぞれ20局です。

放送局をプリセットするには※：

※オンスクリーンディスプレイ画面が開いている場合は、リモコンのExit Exit **ボタン**を押して閉じてから行ってください。

プリセットしたいチャンネル番号の数字をリモコンの**数字ボタン**を使って入力します。

●チャンネル番号1～9にプリセットしたい場合

プリセットしたいチャンネルの**数字ボタン**をしばらく押し続けると、メディアセンターのディスプレイに **“PRESET:## SET”** 表示されてプリセットされます。

●チャンネル番号10～20にプリセットしたい場合

初めに十の位の**数字ボタン**を押して、すぐに一の位の**数字ボタン**を押し続けると、メディアセンターのディスプレイに **“PRESET:## SET”** と表示されてプリセットされます。

●メディアセンターのEnter Enter ボタンを使う場合

プリセットしたい放送局を選んでメディアセンターの**Enter** Enter **ボタン**を1回押すと空いているプリセットチャンネルに自動的にプリセットされます。

登録してある放送局の削除のしかた※：

削除したい放送局を呼び出し、リモコンの**数字ボタン**の **“0”** を約2秒間長押しするとメディアセンターのディスプレイに **“PRESET:## ERASED”** が表示されてプリセットが削除されます。

登録してある放送局をリモコンで呼び出す方法：

・聞きたい放送局が登録してあるプリセット番号の**数字ボタン**を短く1回押します。
・またはリモコンの**Preset** Track Chapter Preset Channel **ボタン**を押してプリセット番号を選びます。

外部機器のソースを聞くとき

メディアセンターに接続されている外部の機器を使用するときは、外部の機器のリモコンや本体の電源スイッチを使用して外部の機器の電源を入れておいてください。

リモコンの**AUX** AUX 、**TV** TV または**CBL・SAT** CBL·SAT **ボタン**を押すと、3･2･1Ⅱ/3･2･1GSⅡシステムの電源が入り、自動的にそのソースが選ばれます。外部の機器にあらかじめテープやディスクをセットしておいてください。

音量はリモコンの**Volume** + − Volume **ボタン**または、メディアセンターのコントロールパネルの**Volume** - Volume + **ボタン**を使って上げ下げします。

外部の機能を操作するためには、それぞれの機器のリモコンや本体のスイッチを使用してください。詳細に関しては、それらの機器の取扱説明書をご覧ください。

本機では、各ソース(音源)に関する利用可能なオプションの設定をソース(音源)設定画面で変更できます。ソース(音源)設定画面は、リモコンの**Settings** Settings **ボタン**を押して、画面に表示してください(“外部機器からのソースを聞くときの設定項目” 36ページ参照)。このとき、テレビの電源を入れてメディアセンターからの映像入力をテレビ側で選択しておいてください。その他の設定項目の内容については、システム設定(37〜40ページ)を参照してください。

スリープタイマーの使い方

3･2･1Ⅱ/3･2･1GSⅡシステムには、10〜90分までの設定時間が経過した後、自動的に電源が切れるスリープタイマーを内蔵しています。
スリープタイマーの設定はそれぞれの再生モード時にリモコンの**Settings** Settings **ボタン**を押してオンスクリーンディスプレイにスリープタイマーの項目を表示させて設定してください。

♪注意：スリープタイマーで切ることができるのは本機の電源のみです。外部の機器の電源を切ることはできません。

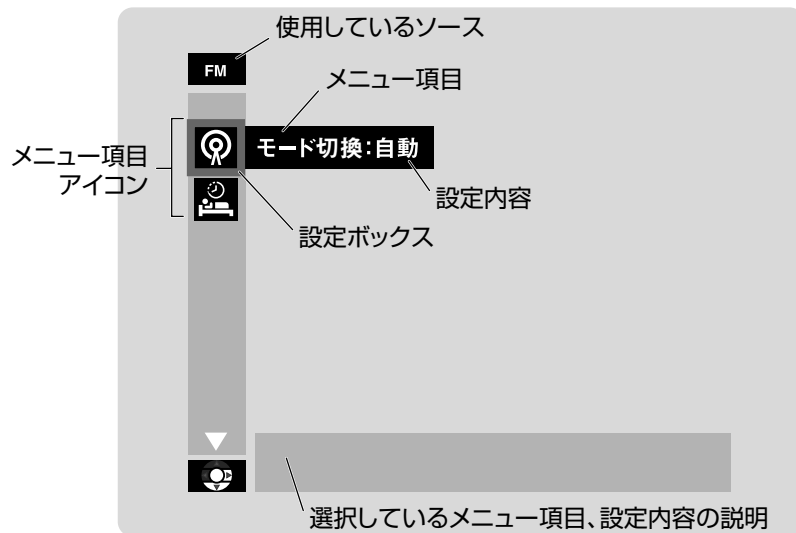
ソース（音源）設定画面を表示するには

ソース（音源）ごとの設定に関しては、リモコンのSettings ○ **ボタン**を押してください。
現在の再生モードと関係する項目が表示されます。例えば、FMラジオモードのときにSettings ○ **ボタン**を押せば、図17のような画面になります（ただし、このとき、テレビの電源を入れてメディアセンターからの映像入力をテレビ側で選択しておく必要があります）。全体のシステムに関する設定は**System** ◎ **ボタン**を押します（37ページ参照）。

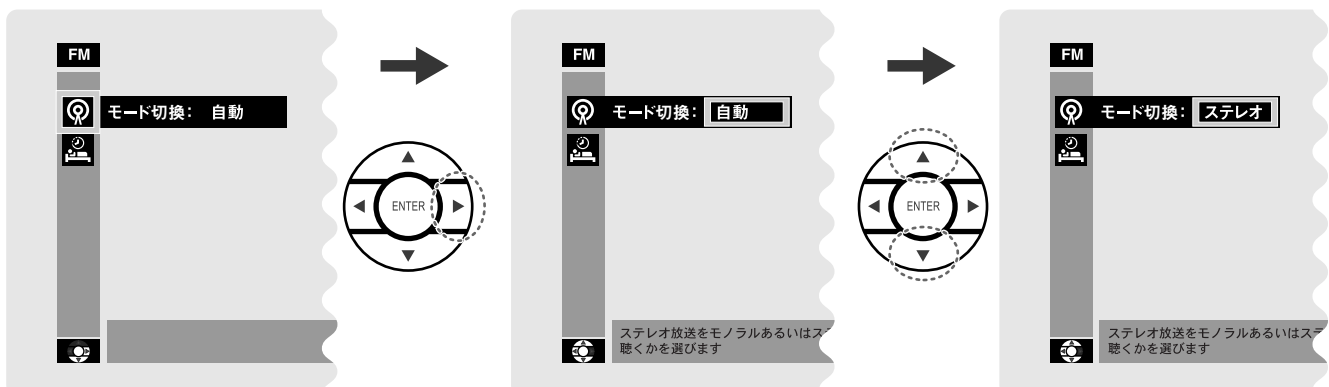
ソース（音源）設定画面をテレビ画面から消すには

リモコンの**Exit** ○ **ボタン**を押してください。

図17

ソース（音源）設定画面

メディアセンターディスプレイの表示例

♪注意：操作に慣れた方であれば図17のようなテレビ画面を出さずに、メディアセンターディスプレイの表示（ただし英数字表記のみ）を見ながら、メニュー項目の設定をしていただいても構いません。

メニュー項目の設定例

DVDの内容による動作の違いについて

DVDを再生中、オンスクリーンディスプレイ上でメニュー項目を設定している最中のシステムの動作は、再生しているDVDによって、停止しているか、前の画面に戻ってしまうか、次の画面に移動してしまうかなど異なります。これは本システムの問題ではありません。

DVDの設定項目

下図のオプション項目は、DVDモード時にリモコンの**Settings** Settings **ボタン**を押して表示させてから設定を変更してください。
システム設定画面の項目の内容については37～40ページを参照してください。

アイコン	項 目	設 定	デフォルト	内 容
	フィルムEQ※	入/切	入	映画用に音質バランスを最適化する時は**[入]**にします。
	D.R.C.※	入/切	入	D.R.C.を**[入]**にすると音量を絞っていても台詞が聴き取りやすくなります。
	モノデコーディング※	入/切	切	モノラル音声をマルチチャンネル再生する時は**[入]**にします。
	時間	__:__:__		現在の再生経過時間を表示します。直接時間を入力すればその点からの再生ができます。
	タイトル	_/_		DVDディスク中のタイトルを選びます。DVDのメニュー画面からしか選べない場合もあります。
	チャプター	_/_		DVDのタイトル中のチャプター（場面）を選びます。DVDのメニュー画面からしか選べない場合もあります。
	音声トラック	ディスクによります		DVDに収録された音声トラックを選びます。DVDのメニュー画面からしか選べない場合もあります。
	字幕言語	ディスクによります		DVDに収録された字幕言語を選びます。DVDのメニュー画面からしか選べない場合もあります。
	カメラアングル	_/_		DVDに収録されたカメラアングルが複数ある場合にカメラアングルを選びます。
	A･Bリピート	a b		繰り返し再生する部分を指定できます。繰り返す部分の始点で**[Enter]**を押して、その後終点でもう一度**[Enter]**を押しリピートを設定します。A･Bリピートを解除するには**[Enter]**か**[STOP]**を押してください。
	スリープタイマー	切/10～90（10分ごと）	切	タイマー設定時間経過後本機の電源を切ります。**[切]**にするとタイマーは働きません。

※音声設定の音声信号調整を**[調整可]**にするとこれらの項目の設定が可能になります（37ページ参照）。

CDの設定項目

下図のオプション項目は、CDモード時にリモコンの**Settings** Settings **ボタン**を押して表示させてから設定を変更してください。
システム設定画面の項目の内容については37〜40ページを参照してください。

アイコン	項　目	設　定	デフォルト	内　容
	トラック	_/_		CDのトラック（曲）を選びます。
	スリープタイマー	切/10〜90（10分ごと）	切	タイマー設定時間経過後本機の電源を切ります。**[切]** にするとタイマーは働きません。

FM/AMの設定項目

下図のオプション項目は、ラジオモード時にリモコンの**Settings** Settings **ボタン**を押して表示させてから設定を変更してください。
システム設定画面の項目の内容については37〜40ページを参照してください。

アイコン	項　目	設　定	デフォルト	内　容
	モード切換（FMのみ）	自動/ステレオ/モノラル	自動	ステレオ放送をモノラルあるいはステレオのどちらかで聴くかを選びます。
	スリープタイマー	切/10〜90（10分ごと）	切	タイマー設定時間経過後本機の電源を切ります。**[切]** にするとタイマーは働きません。

外部機器からのソースを聞くときの設定項目

下図のオプション項目は、TV/CBL・SAT/AUX選択時にリモコンの**Settings** ○ Settings **ボタン**を押して表示させてから設定を変更してください。
システム設定画面の項目の内容については37〜40ページを参照してください。

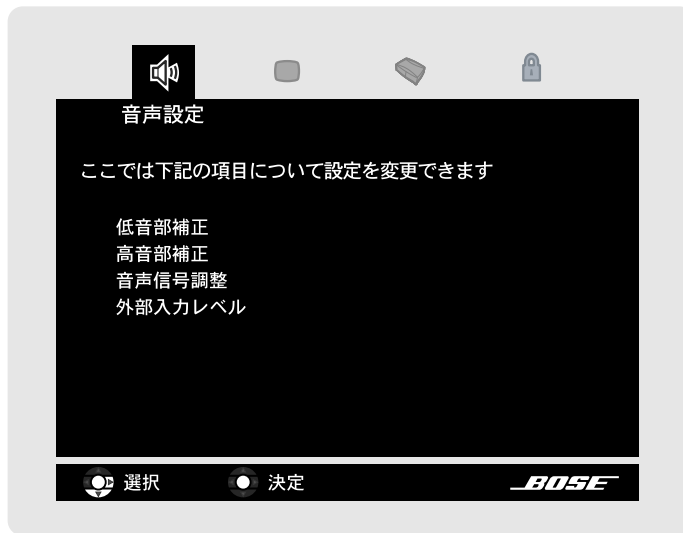
アイコン	項　目	設　定	デフォルト	内　容
	フィルムEQ※	入/切	入	映画用に音質バランスを最適化する時は **[入]** にします。
	D.R.C.※	入/切	入	D.R.C.を **[入]** にすると音量を絞っていても台詞が聴き取りやすくなります。
	モノデコーディング※	入/切	切	モノラル音声をマルチチャンネル再生する時は **[入]** にします。
	オーディオ1+1※※	1/2/両方	1	1+1（デュアルモノ）音声チャンネルのうちチャンネル1、チャンネル2、両方のいずれかを選びます。
	スリープタイマー	切、10〜90（10分ごと）	切	タイマー設定時間経過後本機の電源を切ります。**[切]** にするとタイマーは働きません。

※音声設定の音声信号調整を **[調整可]** にするとこれらの項目の設定が可能になります（37ページ参照）。
※※DVD音声や外部からのデジタル入力にドルビーデジタル1＋1信号やAACの音声多重信号が入力されたとき、この項目の設定が可能になります。チャンネル1（主音声）、チャンネル2（副音声）、両方同時のいずれかを選びます。

システム設定画面を表示するには

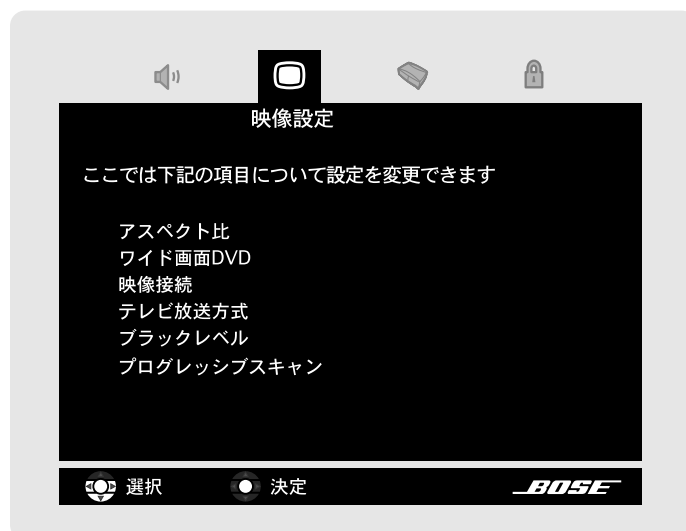
リモコンのSystem ボタンを押して、システム設定の画面を呼び出し、各設定を行うことができます。このとき、必ずテレビの電源を入れてメディアセンターからの映像入力をテレビ側で選択しておいてください。各設定の選択にはリモコンの ボタンを押します。このとき、各項目が強調されて表示されます。決定するときはリモコンのENTER ボタンを押してください。
システム設定画面をテレビ画面から消すにはリモコンのExit ボタンを押してください。

音声設定

図18
音声設定

項　目	設　定	デフォルト	内　容
低音部補正	−14〜+14	0	低音部のレベルを調節します。低音の量を減らすには低い値に低音の量を増やすには高い値に設定します。
高音部補正	−14〜+14	0	高音部のレベルを調節します。高音の量を減らすには低い値に高音の量を増やすには高い値に設定します。
音声信号調整	自動/調整可	自動	ソースに合わせた音声信号調整の方法を選択します。**[調整可]**にすると**[フィルムEQ][D.R.C.][モノデコーディング]**の設定をユーザー自身で変更出来ます。
TVアナログ入力 TVデジタル入力 CBL・SATアナログ入力 CBL・SATデジタル入力 AUXアナログ入力 AUXデジタル入力	+3/+6/標準/−3/−6	標準	他のソースとのバランスがとれるように各ソースからの入力音声信号レベルを調節します。各ソースからの音量が他のソースからの音量に比べて小さいときは高い値に、大きいときは低い値に設定します。

映像設定

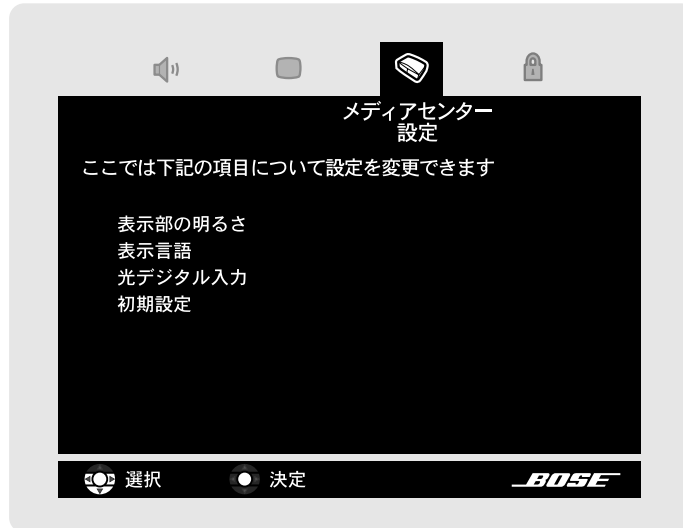
お使いのテレビに合わせて設定を変更できます。

図19
映像設定

項　目	設　定	デフォルト	内　容
アスペクト比	標準/ワイド画面	標準	お使いのテレビのアスペクト比（画面の幅と高さの比）を選びます。標準（4:3）またはワイド画面（16:9）を選びます。
ワイド画面DVD	サイズ補正する/サイズ補正しない	サイズ補正しない	ワイド画面（16:9）DVDソースを標準（4:3）テレビで見る場合に画面のサイズを補正するかどうかを指定します。**［サイズ補正する］**にすると標準（4:3）テレビ用に画面を補正します。
映像接続（表示のみ）	コンポジット/Sビデオ/コンポーネント		使用中の映像接続のタイプを表示します。（ここでの設定変更はできません。）
テレビ放送方式	NTSC/PAL	NTSC	通常この設定は変更しないで下さい。**NTSC**は日本や米国などでの標準方式、**PAL**はヨーロッパなどでの標準方式です。
ブラックレベル	拡張/標準	拡張	映像のブラックレベルを選びます。日本では多くの場合**［拡張］**に設定しておくのがよいでしょう。
プログレッシブスキャン※	切/入	切	プログレッシブスキャン対応テレビと接続する場合のみ**［入］**に設定してください。

※本機とコンポーネント対応テレビがコンポーネントケーブルで接続されているときに表示されます。
　なお、このとき**［ブラックレベル］**は表示されません。

メディアセンター設定

図20

メディアセンター設定

項　目	設　定	デフォルト	内　容
表示部の明るさ	1〜4	4	メディアセンター表示部の明るさを調整します。**[4]** に設定すると最も明るくなります。
表示言語	日本語/英語	日本語	画面上のメニュー表示は日本語または英語でできます。指定した言語でメニュー画面が表示されます。
光デジタル入力	なし/TV/CBL･SAT/AUX	なし	指定したソースに光デジタル接続を割り当てます。光デジタルで接続したいソースを選んで下さい。
初期設定	実行/中止	中止	工場出荷時の初期設定に戻します。下記の設定を工場出荷時の初期設定に戻すには **[実行]** を選んで下さい。

初期設定に戻る項目と初期設定

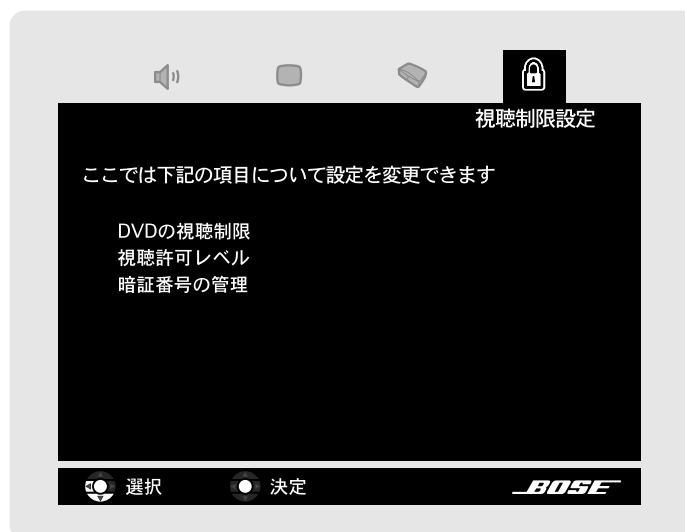
- 音声設定の音声信号調整が **[自動]**に戻ります。
- フィルムEQ※が **[入]**に戻ります。
- D．R．C．※が **[入]**に戻ります。
- モノデコーディング※が **[切]**に戻ります。
- オーディオ1＋1※※が **[1]**に戻ります。

※音声設定の音声信号調整を **[調整可]**にしないと画面に現れません（37ページ参照）。

※※DVD音声や外部からのデジタル入力にドルビーデジタル1＋1信号やAACの音声多重信号が入力されたときのみ画面に表示されます（36ページ参照）。

視聴制限設定

視聴年令制限に対応したディスクの再生を制限する、視聴制限についての設定項目です。(41ページ参照)

図21
視聴制限設定

まず初めに暗証番号を設定してください。

1. 暗証番号を最初に設定するとき、項目に**暗証番号設定**と表示されますので、数字ボタンを使って暗証番号にする4桁の数字を入力してください。
2. その後、確認のために、暗証番号を入力するように要求されますので、手順1で設定した暗証番号を再度入力してください。
3. 設定が終了します。次回からは設定した暗証番号を入力してください。

暗証番号入力前

項　目	設　定	デフォルト	内　容
暗証番号入力	・・・・		視聴制限メニューにアクセスする暗証番号を入力してください。

暗証番号入力後

項　目	設　定	デフォルト	内　容
DVDの視聴制限	実行/中止	中止	暗証番号を設定していればDVDの視聴を制限できます。
視聴許可レベル	1〜8	8	視聴許可レベルを越えるDVDの視聴を制限します。**[8]** にすると制限はかかりません。
暗証番号の変更	・・・・		現在の暗証番号を変更します。

※設定した暗証番号を忘れてしまったときは、[2673]と入力すると、以前の暗証番号が解除されます。その後、新たに暗証番号を設定してください。
視聴制限機能を使用する場合は、お子様が不用意に視聴制限を解除しないように、この取扱説明書の保管にご留意ください。

視聴制限(パレンタルコントロール)について

視聴制限とは、国ごとの規制レベルに合わせて視聴年齢制限のレベルが設定されているディスクの再生を制限するというDVDの機能の一つです。制限の仕方はDVDによって異なり、ディスクによっては子供に見せたくないシーンをカットしたり、全く再生できないようにする、別の画面に差し換えるなどするものもあります。3・2・1Ⅱ/3・2・1GSⅡでは子供がレベル設定を変えることのないように、暗証番号で設定を保護することができます。通常各DVDにおける視聴許可レベルは全米映画協会(MPAA)によって設定された標準の映画観客指定に準拠しています。 これらの視聴許可レベルは1(どんなに小さい子供でも見せてよい)から8(成人向け)まであります。視聴制限の使い方は40ページを参照してください。

視聴許可レベル	視聴(年齢)制限の およそのめやす	全米映画協会 映画観客指定
8	最も厳しい年齢制限	
7	17歳以下入場禁止	NC-17
6	17歳未満保護者同伴要	R
5	中学生以下保護者同意要	
4	13歳未満保護者同意要	PG-13
3	年少者保護者同意要	PG
2	ほぼ年齢制限なし	
1	一般(年齢制限なし)	G

※適切な視聴許可レベルは、実際に視聴制限のレベルが設定されているDVDソフトをお買い上げになられたときに、お客様自身で動作させて、ご確認ください。

視聴許可レベルの設定

再生するDVDソフトにレベル設定がされている必要があります。本機で視聴許可レベルを設定しても、DVDソフトにレベル設定がされていなければ、この機能は使用できません。

視聴許可レベルの意味

「一般(年齢制限なし)(レベル1)」とは、どんな小さな子供にも見せることができる内容であるという意味です。本機で視聴許可レベルを[1]にすると、レベル2〜8に設定してあるDVDソフトを視聴することができなくなるという意味です。

3・2・1Ⅱ/3・2・1GSⅡのレベル設定	視聴可能なソフトの視聴制限レベル
8 以下	8 7 6 5 4 3 2 1
7 以下	7 6 5 4 3 2 1
6 以下	6 5 4 3 2 1
5 以下	5 4 3 2 1
4 以下	4 3 2 1
3 以下	3 2 1
2 以下	2 1
1	1

3・2・1Ⅱ/3・2・1GSⅡシステムのお手入れについて

メディアセンターとスピーカーのお手入れ

・汚れやほこりは柔らかい布でから拭きしてください。

・汚れがひどい時は、中性洗剤を薄めた水に柔らかい布を浸し、堅く絞って拭きとってから、柔らかい布でから拭きしてください。

・アルコール、シンナー、ベンジンなどの薬品はキャビネットの表面をいためますので、ご使用にならないでください。また、スプレー式の殺虫剤や消臭剤、芳香剤などもかからないようにご注意ください。

・どの開口部からも液体が入らないようにご注意ください。

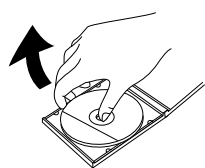
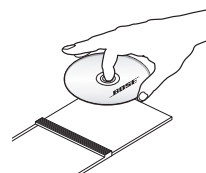
・スピーカーのグリルの部分を掃除するときは、掃除機を使って傷つけないように弱い吸引力で注意深く吸い取ってください。

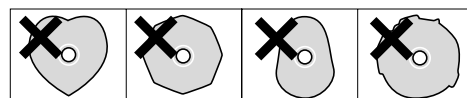
ディスクの取り扱いについて

結露現象について

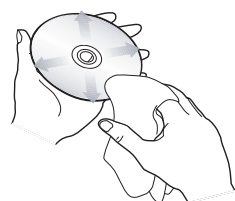
冬、暖房のきいた部屋の窓ガラスに水滴がつき、くもってしまう現象、これが結露現象です。メディアセンターも冷えきった状態のまま暖かい部屋に持ち込んだり、急に室温を上げたりすると、光学系のレンズ(ピックアップのレンズ部分)に露が生じ(結露)、レーザーによるディスクからの信号読み取りができず、メディアセンターが動作しないことがあります。
このような現象が生じた場合は、周囲の状況にもよりますが、電源を入れ1時間程放置すると結露が取り除かれメディアセンターは正常に動作するようになります。

ディスクの取り扱いについて

ディスクの表面にキズをつけないよう大切に扱ってください。
ディスクのセットは、必ずレーベル面を上にして、セットしてください。

ディスクをケースから取り出すときは、必ずケースの中心を一度押して、ディスクの外周部分を手ではさむように持って取り出してください。

ディスクを持つ場合には、演奏面(ラベルの印刷していない面)に触れないように、両端をはさんで持つか、中央の穴と端をはさんで持ってください。

- ・レーベル面に紙などを貼ったり、ボールペンなどで文字を書かないでください。
- ・再生が終わったディスクは、必ずケースに入れて保管してください。そのままディスクを放置するとそりやキズの原因となります。
- ・ディスクにセロハンテープやレンタルディスクのシールなどをはがしたあとがあるもの、またシールなどから糊がはみ出ているものは使用しないでください。そのままメディアセンターにかけると、ディスクが取り出せなくなったり、故障の原因となることがあります。
- ・ディスクは、2枚以上重ねて置いたり、ディスク以外のものをトレーの上に置かないでください。故障の原因になります。
- ・市販のディスクスタビライザーは、絶対に使用しないでください。再生できなくなったり、故障の原因となることがあります。
- ・ハート型や八角形など特殊形状のディスクは、機器の故障の原因となりますので使用しないでください。

ディスクの表面はいつもきれいに

ディスクの表面を拭くときは必ずディスク専用のクリーナーを使用して右の図のように拭いてください。

※ディスクは、プラスチック製です。従来のレコード用クリーナーや帯電防止剤、ベンジン、シンナーなどの揮発性の薬品を使用すると、ディスクの表面に悪い影響を与えますので絶対に使用しないでください。

ディスク保管上の注意

ディスクはケースに入れて正しく保管しましょう。ディスクを大切にするため次のような場所に置くことはさけてください。

- **●直射日光の当たる場所。**
- **●暖房器具の近くや空調の吹き出し口などの高温になる場所。または高温になる物の上。**
- **●車の中などの高温になる場所。**
- **●投光照明機などの発熱物の近くの場所。**
- **●極端に寒い場所。**
- **●湿気や水分のある場所、プール、浴室などの湿気の多い場所。**
- **●屋外や直接水のかかるところ。**

⚠ 注意：ひび割れ、変形、または接着剤などで補修したディスクは、使用しないでください。ディスクは機器内で高速回転しますので、飛び散って、けがや故障の原因となることがあります。

故障かな？と思ったら

問　　題	対　　　　　応
システムが全く機能しない	• ベースモジュール接続ケーブルとメディアセンターが確実に接続されていて、ベースモジュールにACケーブルが確実に差し込まれており、ACプラグが確実にコンセントに差し込まれていることを確認する。 • 音源の選択が行われていることを確認する。
音声が全く出ない	• ベースモジュール接続ケーブルがメディアセンターのACCOUSTIMASS　MODULEジャックに接続されており、ケーブルの反対側がベースモジュールにしっかり接続されていることを確認する。 • ACプラグをコンセントから抜いて、約1分以上放置して、もう一度電源を入れ直してみる。 • 外部の機器との接続をチェックする。希望する音源に対して適切な入力端子を選択しているか確認する。 • スピーカーコードの接続をチェックする。 • ディスクがメディアセンターに正しくセットされていることを確認する。 • ボリュームを上げる。 • ミュートがかかっている場合は、リモコンの**Muteボタン**を押しミュートを解除する。
音が歪んでいる	• スピーカーコードに損傷したところがないか確認する。 • 外部の機器からの出力が大きすぎないか確認する。
リモコンが正しく働かない、あるいはまったく働かない	• 電池装着および、その極性（⊕と⊖）をチェックする。 • リモコンをメディアセンターの表示部に近づけて操作する。 • メディアセンターの**ソースボタン**でソース（音源）の切り替えを行った場合、そのままではリモコンが働きません。一旦リモコンでその音源に切り替えてから操作してください（26ページ参照）。
ディスクが再生できない	• 表示部のプレイ ▶ 記号が点灯しているかチェックする。 • 正しくディスクがメディアセンターにセットされているかを確認する。 • ディスクにキズや汚れなどがついている可能性がある。別のディスクを使ってみる。 • レーザーピックアップあるいはディスクに塵やゴミが付いている可能性がある。市販のクリーニングキットを使ってみる。 • 本機が対応していないディスクを再生しようとしている。 ※コピーガードや長時間記録など特殊な処理を施されたCDをかけた場合、正しく再生されないことがありますのでご注意ください。 • DVDビデオディスクの場合、地域番号（リージョンコード）が正しいか確認する。
ラジオが動作しない	• アンテナが正しく接続されていることを確認する。 • アンテナの位置を調節して、受信状態を改善する。 • 信号が弱い地域の可能性がある。 • AMアンテナを本機からもっと離してみる。 • FMの場合、テレビのアンテナ信号を分配器を使って分配してみる。
FMサウンドが歪んでいる	• アンテナの位置や向きを調節してみる。
外部機器からの音声が出ない	• 入力切換で正しく外部の機器を選んでいるかチェックする。 • 接続をチェックする。 • 外部機器の取扱説明書を参照する。
TV、CBL・SAT、AUXに接続した外部機器からの音声の低音が大きすぎる	• “フイルムEQ”がかかっていないかを確認し、かかっているようであれば解除する（36ページ参照）。
画像がでない	• テレビの電源が入っているか確認する。 • 3･2･1Ⅱ/3･2･1GSⅡシステムの電源が入っているか確認する。 • メディアセンターの映像出力端子とテレビの映像入力端子が正しく確実に接続されているかを確認する。 • テレビ側の映像入力切換が適正ポジションであるか確認する。
再生画像がでない、乱れる（DVD画像）	• ディスクが、メディアセンターに正しくセットされていることを確認する。 • DVD以外のディスクが入っていないか確認する。 • ディスクにキズや汚れなどがついている可能性がある。別のディスクを使ってみる。 • 本機が対応していないディスクを再生しようとしている。 ※本機が再生できるソフトは、リージョンコード（発売地域割当コード）が2のソフトです。 • DVDの映像出力が直接テレビの映像入力につながれていることをチェックする。 ※途中に別の機器をつなぐと映像が正しくでません。

問　　題	対　　応
再生画像がでない、乱れる（ビデオ画像）	• ビデオ側の電源が入っているか確認する。 • ビデオテープが正しく挿入されているか確認する。 • ビデオの映像出力が、本機の映像入力端子に正しく接続されているか確認する。 • ビデオケーブルが不良の場合は、他のケーブルと交換する。
画面が乱れる、あるいは白黒になっている	• システム設定画面の"映像設定"で"テレビ放送方式"に[NTSC]が選択されていることを確認する（38ページ参照）。 • テレビの映像入力端子とメディアセンターの映像出力端子をコンポジット（黄色）映像ケーブルで接続している場合、メディアセンター背面のVideo OUT C（黄色）の端子にケーブルが差し込んであるか確認する。
DVDディスクを再生しようとすると、暗証番号の入力を要求される	• 本機の視聴許可レベルがDVDソフトのレベルより低いレベルに設定されている。"視聴制限設定"の"視聴許可レベル"（40ページ参照）で本機のレベルの設定を変更してください。 • 演奏しようとするDVDソフトに視聴制限の設定がされていないのに、本機のDVD視聴制限が[実行]に設定されています。"視聴制限設定"（40ページ参照）の"DVDの視聴制限"を[中止]に変更してください。
ディスクが取り出せない	• **取出方法** 1. AC ケーブルをコンセントから抜く。 2. 1分以上経ってから再び AC ケーブルをコンセントに差し込む。 3. 通常通りに **Eject ボタン**を押す。 **注意** 上記の取出方法を行っても取り出せない場合は、無理やりディスクトレーをこじ開けようとしたり、本体を開けようとしないでください。本体やディスクトレーにキズが付くばかりでなく、内部の CD や DVD にもキズが付き、そのディスクを再生することができなくなる場合があります。取出方法を試してみてもディスクが取り出せない場合は無理をせず、下記のお問い合わせ先までお電話ください。

故障の場合のお問い合わせ先

故障及び修理のお問い合わせは、
　ボーズ・サービスセンター株式会社　　フリーダイヤル　0120-235-250
　住所　〒206-0035　東京都多摩市唐木田1-53-9　唐木田センタービル

製品等のお問い合わせは、
　ボーズ株式会社、インフォメーションセンター　　☎ 03-5489-0955
　までご連絡ください。

保証

保証の内容および条件は付属の保証書をご覧ください。

設定コード表

下記のメーカー製品であっても、機種によっては操作できないもの、または限られた機能しか操作できないものもあります。

テレビ

Maker	Codes
Aiwa	1910, 1915, 0701, 1904, 1914, 1955, 0848, 1911, 1916, 0705
Denon	0511
Fujitsu	0217, 0809, 0072, 0206, 0683, 0009, 0186, 0259, 0853, 0179
Funai	0180, 0171, 1904, 0179, 0294, 0804, 0264, 0668, 0303
General	0186
GoldStar	0001
Goodmans	0360
Hitachi	1256, 0156, 0030, 0178, 1145, 0145, 0027, 0563, 0072, 0165, 0306, 0480, 0036, 0629, 0108, 1481, 0186, 0356, 0499, 0039, 0744, 0151, 0198, 0016, 0548, 0056, 1137, 0163, 0227, 0473, 0032, 0578, 0105, 0179, 0349, 0492, 0038, 0719, 0196, 0009, 0516, 0044, 1045, 0157, 0225, 0381, 0576, 0092, 1170, 0343, 0481, 0037, 0634, 0109, 1904, 0194, 0363, 0508, 0043, 1037, 0217
JVC	0093, 0463, 0053, 0653, 0193, 1923, 0418, 0606, 0192, 1253, 0371, 0036, 0508, 0190, 0683, 0218
Kenwood	0030
LG	0060, 0030, 0178, 0039, 0700, 0108, 0856, 0442, 1934, 0038, 0698, 0715, 0003, 1926, 0037, 0644, 0056, 0714, 0001, 0109, 1178, 0032, 0556
Loewe	0136
Matsushita	0250
Mitsubishi	0154, 0250, 0093, 0236, 0180, 1250, 0150, 0030, 0178, 0108, 0512, 0817, 0037, 1037, 0381, 0556, 0036, 0868, 0087, 0354, 1917, 0535, 0033, 0179, 0836, 0056
NEC	0154, 0156, 0051, 0053, 0030, 0178, 0264, 0661, 0381, 0817, 0011, 0170, 0497, 1704, 0046, 0217, 0603, 0056, 0374, 0705, 0009, 0165, 0455, 1270, 0036, 0186, 0508, 0320, 0704, 0412, 1170, 0499
Panasonic	0054, 0250, 0051, 1930, 0226, 0853, 1947, 0340, 1650, 0108, 0508, 1927, 0214, 0650, 1946, 0037, 1410, 0055, 0367, 1924, 0208, 0548, 1941, 0227, 1210, 0361, 1919, 0163, 0516
Philips	1454, 0054, 0017, 0000, 0051, 0030, 0178, 0554, 0043, 0193, 0721, 0056, 0343, 0027, 0108, 0423, 0037, 0187, 0690, 0012, 0238, 1154, 0024, 0092, 0374, 0032, 0186, 0556, 0009, 0200, 0774, 0020, 0087, 0361
Pioneer	0166, 0287, 0011, 0428, 0109, 0679, 0170, 0423, 0038, 0512, 0866, 0361, 0037, 0486, 0163, 0760
Sanyo	0154, 0156, 0180, 0145, 0045, 0208, 0508, 0104, 0227, 0721, 0339, 1907, 0036, 0412, 0088, 0217, 0555, 0280, 1154, 0011, 0157, 0381, 0072, 0216, 0544, 0108, 0264, 0799, 0370

Brand	Codes
Sharp	0093, 0053, 0030, 0516, 0165, 0689, 0256, 0851, 0039, 0491, 0157, 0688, 0009, 0200, 0818, 0036, 0386, 1917, 0650, 0193, 0720, 0032, 0294, 1193
Sony	1100, 0000, 0156, 0250, 0093, 0150, 0053, 0145, 1505, 0102, 1925, 0650, 0036, 0170, 1904, 0505, 0011, 1010, 0157, 1651, 0111, 0353, 0834, 0037
Toshiba	0154, 1256, 0156, 0093, 0060, 0145, 0618, 1656, 0227, 0714, 1935, 0102, 0381, 0845, 0508, 1508, 0036, 0217, 0650, 1918, 0264, 0832, 1945, 0502, 1356, 0035, 0195, 0644, 1704, 0070, 0243, 0821, 1936, 0109, 0412, 0009
Victor	0653, 0036
Yamaha	0839

ビデオデッキ

Brand	Codes
Aiwa	0037, 0000, 0209, 0479, 0352, 0124, 0348, 0307
Fujitsu	0045, 0000
Funai	0000, 1593, 0593
General	0045
Hitachi	0037, 0081, 0240, 0000, 0042, 0041, 0089, 0593, 0046, 0166, 1037
JVC	0081, 0045, 0067, 0041, 1008, 0384
Matsushita	0035, 0162, 1162, 0226
Media Center PC	1972
Microsoft	1972
Mitsubishi	0048, 0081, 0000, 0067, 0043, 0041, 0642, 0480
NEC	0035, 0037, 0048, 0104, 0067, 0041, 0278, 0038
Panasonic	1062, 0035, 0162, 0614, 1562, 0226, 0836, 1262, 0616, 1162, 1662
Philips	0035, 0081, 0000, 0563, 0739, 0384, 0618, 1181, 0226, 0593, 1081
Pioneer	0162, 0081, 0042, 0067
Sanyo	0048, 0047, 0240, 0104, 0067, 0209, 0159, 0348, 0046
Sharp	0037, 0048, 0209, 1048, 0848, 0569
Sony	0035, 0032, 0033, 0000, 0636, 0106, 1972, 1032, 0034
Toshiba	0081, 0045, 0042, 0067, 0043, 0041, 1972, 0384, 1503, 0352, 1008, 0432
Victor	0067, 0041, 0384, 1256, 0156, 0030, 0178, 1145, 0145, 0027, 0563, 0072, 0165, 0306, 0480, 0036, 0629, 0108, 1481, 0186, 0356, 0499, 0039, 0744, 0151, 0198, 0016, 0548, 0056, 1137, 0163, 0227, 0473, 0032, 0578, 0105, 0179, 0349, 0492, 0038, 0719, 0196, 0009, 0516, 0044, 1045, 0157, 0225, 0381, 0576, 0092, 1170, 0343, 0481, 0037, 0634, 0109, 1904, 0194, 0363, 0508, 0043, 1037, 0217, 0093, 0463, 0053, 0653, 0193, 1923, 0418, 0606, 0192, 1253, 0371, 0036, 0508, 0190, 0683, 0218

ケーブル

Brand	Codes
Hitachi	0014, 0011
Motorola	0476, 0810, 0276, 1254, 1106, 1376
Panasonic	0000, 0008, 0107, 0021, 0040
Philips	0317, 0153, 0619, 0025, 1305, 0013, 0286, 0817
Pioneer	1877, 0877, 0144, 0533, 1021
Sony	1006
Toshiba	0000

衛星チューナー

Brand	Codes
Funai	0338
Hitachi	0819, 0489, 1250, 0455, 0214, 0491
JVC	0775, 0571, 1775, 0492, 1170
Kenwood	0853
Maspro	0571, 0173, 0750, 0713
Matsushita	0500, 0340, 0214
Mitsubishi	0749, 0455, 0491
Motorola	0869, 0856
NEC	0496, 1270
Panasonic	0247, 0701, 1320, 0500, 1304, 0214, 0455, 1104, 0152, 0340
Philips	1142, 0749, 1749, 0724, 0856, 1076, 0722, 0099, 0200, 0818, 0571, 1442, 0173, 0750, 0455, 0710, 0133, 0292, 0853, 0668, 1114
Pioneer	0292, 0853, 0352, 0329
Sanyo	1219, 0493
Sharp	0494
Sony	0639, 1639, 0492, 0282, 0496, 0340, 0853, 0491, 0163, 0494, 0294, 0489, 1640, 0493, 0292, 0500, 0486
Toshiba	0749, 1749, 0790, 0486, 1285, 0455, 0082
Uniden	0724, 0722, 0052, 0238, 0834, 0076, 0074

仕様

■スピーカー部

方　　　式　TrueSpace®サラウンド

●ジュエルアレイ(防磁型)――― [3・2・1GSⅡ]

ユニット構成　50mmドライバー×2(1本)
外形寸法　142(W)×66(H)×107(D)mm
質量　440g(1本)

●イメージアレイ(防磁型)――― [3・2・1Ⅱ]

ユニット構成　60mmドライバー×2(1本)
外形寸法　200(W)×88(H)×136(D)mm
質量　1.2Kg(1本)

●ベースモジュール(非防磁型)

ユニット構成　13cmウーファー×1
外形寸法　222(W)×364(H)×489(D)mm
質量　11.6kg

＜内蔵アンプ部＞

ベース定格出力　35W×1

■メディアセンター部

外形寸法　349(W)×83(H)×254(D)mm
質量　3.1kg

＜内蔵アンプ部＞

フロント定格出力　25W×2
サラウンド定格出力　25W×2

＜プリアンプ部＞

音声入力　アナログ　3系統(TV／CBL・SAT／AUX)
　　　　　デジタル　同軸3系統(TV／CBL・SAT／AUX)/光1系統(TV／CBL・SAT／AUXから選択)
映像入力　コンポジット×1、S×1
映像出力　コンポジット×1、S×1、コンポーネント×1

＜DVD/CDプレーヤー部＞

再生周波数帯域　20Hz～20kHz(±0.5dB)

＜チューナー部＞

FM受信周波数/チャンネルステップ　76.0～90.0MHz/100kHz
AM受信周波数/チャンネルステップ　531～1629kHz/9kHz

■その他

電源電圧　AC100V、50/60Hz
最大消費電力　300W

■付属品

スピーカーコード(4.4m×1セット)、ベースモジュール接続ケーブル(3m×1本)、
ACケーブル(2.4m×1本)、T型FMアンテナ×1本、ループ型AMアンテナ×1セット、
映像ケーブル(1.8m×1本)、セットアップ・デモ用ディスク×1枚
オーディオピンケーブル(1.7m×1本)、赤外線リモートコントローラー×1個、
スピーカー用ゴム足×8個、ベースモジュール用ゴム足×4個、リモコン用乾電池×2

ボーズ株式会社　〒150-0044　東京都渋谷区円山町28-3　渋谷ＹＴビル　ＴＥＬ03-5489-0955
http://www.bose.co.jp/

●仕様及び外観は改良のため予告なく変更することがあります。
●弊社取扱以外の製品については、保証の責任を負いかねますのでご了承願います。

OM-1315
08・0.7-0.8K-H・1(I-M)